

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部/学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホシノ タישョウガク 学校法人 大正大学							
フリガナ大学の名称	タイショウガク 大正大学 (Taisho University)							
大学本部の位置	東京都豊島区西巣鴨三丁目20番1号							
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神「智慧と慈悲の実践」により人間を総合的に理解し、人類の福祉に貢献する人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の目的	<p>【文学部 日本文学科】</p> <p>①日本文化の領域に関する知識と教養を兼ね備え、社会や地域の文化向上や活性化に貢献できる人材の養成。 豊かな感性をもってバランスの取れた思考と行動ができる人材の養成。</p> <p>②日本文学と日本語に関する専門的知識を習得させる。 また、その知識を運用して円滑なコミュニケーションができる能力（日本語表現力）を身につけさせる。</p> <p>③中学・高等学校の教育現場、図書館司書、編集・出版業界、一般企業、サービス業。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	文学部 [Faculty of Literature] 日本文学科 [Department of Japanese Literature] 計	4年	70人	0年次人	280人	学士 (日本文学)	平成27年4月 第1年次	東京都豊島区西巣鴨 三丁目20番1号
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	文学部 人文学科〔定員減〕 (△70) (平成27年4月)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	文学部 日本文学科	148科目	13科目	0科目	161科目	124単位		

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
新 設 分	文学部 日本文学科		3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	10 (7)
	計		3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	10 (7)
既 設 分	仏教学部 仏教学科		13 (17)	5 (6)	8 (3)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	59 (57)
	人間学部 社会福祉学科		5 (5)	3 (2)	1 (1)	0 (1)	9 (9)	0 (0)	18 (19)
	人間環境学科		7 (5)	2 (3)	1 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	18 (18)
	臨床心理学科		8 (9)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (12)	0 (0)	10 (11)
	人間科学科		7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	20 (18)
	教育人間学科		6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	11 (13)
	文学部 人文学科		6 (7)	1 (2)	1 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	7 (5)
	歴史学科		10 (13)	2 (1)	1 (2)	0 (0)	13 (16)	0 (0)	25 (24)
	表現学部 表現文化学科		7 (10)	2 (3)	3 (1)	0 (3)	12 (17)	0 (0)	50 (51)
	その他		1 (1)	1 (1)	5 (5)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	80 (85)
	計		70 (80)	23 (25)	23 (17)	2 (6)	118 (128)	0 (0)	298 (301)
合 計		73 (79)	26 (29)	23 (20)	2 (6)	124 (134)	0 (0)	308 (308)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		134 (134)		20 (20)		154 (154)		
	技 術 職 員		1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	そ の 他 の 職 員		0 (1)		0 (0)		0 (1)		
計		136 (137)		20 (20)		156 (157)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地の内 21,135.55㎡ は(学)佛教教 育学園から貸 与 [貸与期間] H24.4.1から 20年間			
	校 舎 敷 地	41,034㎡	0㎡	0㎡	41,034㎡				
	運 動 場 用 地	31,429㎡	0㎡	0㎡	31,429㎡				
	小 計	72,463㎡	0㎡	0㎡	72,463㎡				
	そ の 他	287㎡	0㎡	0㎡	287㎡				
合 計	72,750㎡	0㎡	0㎡	72,750㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		57,676㎡ (57,676㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	57,676㎡ (57,676㎡)				
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	70室	49室	11室	4室 (補助職員 2人)	0室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		日本文学科		7 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	電子ジャーナル、視 聴覚資料は、大 学全体で共用	
	日本文学科	19,303 [249] (18,556 [221])	12,600 [41] (11,693 [38])	26 [0] (25 [0])	21,504 (20,500)	0 (0)	0 (0)		
	計	19,303 [249] (18,556 [221])	12,600 [41] (11,693 [38])	26 [0] (25 [0])	21,504 (20,500)	0 (0)	0 (0)		
図 書 館		面積	閲覧座席数	取 納 可 能 冊 数					
		5,656㎡	428	623,417					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		2,911㎡	野球場、テニスコート						
経 費 の 見 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費 (運用コスト含 む)を含む。
	経費の見積り								
	教員1人当たり研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—	—	
	共同研究費等		11,000千円	11,000千円	11,000千円	11,000千円	—	—	
	図書購入費	96,000千円	96,000千円	96,000千円	96,000千円	96,000千円	—	—	
	設備購入費	9,776千円	9,000千円	9,000千円	9,000千円	9,000千円	—	—	
	学生1人当たり 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
文学部									
日本文学科	1,080千円	900千円	900千円	900千円	900千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、寄付金(設立宗派・同窓会・寺院関係者)、手数料(入学検定料等)、資産運用収入等						

大学等の名称	大正大学								所在地	
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
既設大学等の状況	仏教学部	年	人	年次人	人					
	仏教学科	4	100	3年次 25	450	学士(仏教学)	1.14	平成22年度	東京都豊島区西巣鴨 三丁目20番1号	
	人間学部						1.16			
	仏教学科	4	—	—	—	学士(仏教学)		平成5年度		平成22年より学生募集停止
	社会福祉学科	4	80	—	320	学士(社会福祉学)	1.16	平成5年度		
	アーバン福祉学科									
	ソーシャルワーク専攻	4	—	—	—	学士(社会福祉学)		平成22年度		平成23年より学生募集停止
	環境コミュニティ専攻	4	—	—	—	学士(社会福祉学)		平成22年度		平成23年より学生募集停止
	人間環境学科	4	60	—	240	学士(人間環境学)	1.14	平成23年度		
	臨床心理学科	4	110	3年次 5	425	学士(臨床心理学)	1.13	平成21年度		
	人間科学科	4	120	3年次 3	441	学士(人間科学)	1.17	平成12年度		
	人間科学科									
	人間科学専攻	4	—	—	—	学士(人間科学)		平成20年度		平成23年より学生募集停止
	教育人間学専攻	4	—	—	—	学士(人間科学)		平成20年度		平成23年より学生募集停止
	教育人間学科	4	65	3年次 3	266	学士(教育人間学)	1.21	平成23年度		
	文学部						1.18			
	表現文化学科	4	—	—	—	学士(表現文化)		平成15年度		平成22年より学生募集停止
	人文学科	4	140	3年次 3	486	学士(人文学)	1.19	平成22年度		
	歴史学科	4	160	3年次 3	621	学士(歴史学)	1.18	平成15年度		
	表現学部						1.19			
	表現文化学科	4	200	3年次 3	736	学士(表現文化)	1.19	平成22年度		
	仏教学研究科									
	仏教学専攻									
	博士前期課程	2	30	—	70	修士(仏教学)	0.64	平成13年度	東京都豊島区西巣鴨 三丁目20番1号	
	博士後期課程	3	7	—	21	博士(仏教学)	0.71	平成13年度		
	人間学研究科									
	社会福祉学専攻									
	修士課程	2	5	—	12	修士(社会福祉学)	0.41	平成13年度		
	臨床心理学専攻									
	修士課程	2	18	—	36	修士(臨床心理学)	0.91	平成13年度		
人間科学専攻										
修士課程	2	3	—	8	修士(人間科学)	0.30	平成13年度			
福祉・臨床心理学専攻										
博士後期課程	3	3	—	9	博士(人間学)	0.44	平成13年度			
文学研究科										
宗教学専攻										
博士前期課程	2	5	—	15	修士(文学)	0.90	昭和27年度			
博士後期課程	3	2	—	8	博士(文学)	0.50	昭和32年度			
史学専攻										
博士前期課程	2	10	—	20	修士(文学)	0.45	昭和54年度			
博士後期課程	3	2	—	8	博士(文学)	0.55	昭和54年度			

国文学専攻	博士前期課程	2	3	—	8	修士(文学)	0.46	昭和27年度		
	博士後期課程	3	2	—	8	博士(文学)	0.38	昭和32年度		
	比較文化専攻									
	博士前期課程	2	3	—	18	修士(文学)	0.26	平成9年度		
	博士後期課程	3	2	—	8	博士(文学)	0.22	平成11年度		
附属施設の概要	<p>名称 : カウンセリング研究所</p> <p>目的 : 本学の設立理念である仏教精神の体現を基盤として、カウンセリングの理論・技法及びその実践に関する教育と研究を行う</p> <p>所在地 : 東京都豊島区西巣鴨三丁目20番1号</p> <p>設置年月 : 昭和38年4月</p> <p>規模等 : 面積549.92㎡ (教室棟の一部)</p>									
	<p>名称 : 総合仏教研究所</p> <p>目的 : 本学の設立理念である仏教精神の体現を基盤として、仏教とその文化に関する研究、及び有為な研究者の育成</p> <p>所在地 : 東京都豊島区西巣鴨三丁目20番1号</p> <p>設置年月 : 昭和32年4月</p> <p>規模等 : 面積259.36㎡ (教室棟の一部)</p>									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校は、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人大正大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大正大学					大正大学				
仏教学部 仏教学科	100	25	450	→	仏教学部 仏教学科	100	25	450	
人間学部 社会福祉学科	80	-	320		人間学部 社会福祉学科	80	-	320	
人間環境学科	60	-	240		人間環境学科	60	-	240	
臨床心理学科	110	5	450		臨床心理学科	110	5	450	
人間科学科	120	3	486		人間科学科	120	3	486	
教育人間学科	65	3	266		教育人間学科	65	3	266	
文学部 人文学科	140	3	566		文学部 人文学科	70	3	286	定員変更
歴史学科	160	3	646		日本文学科	70	-	280	学部の学科の設置(届出)
表現学部 表現文化学科	200	3	806		歴史学科	160	3	646	
計	1035	45	4230		計	1035	45	4230	
大正大学大学院					大正大学大学院				
仏教学研究科 仏教学専攻(M)	30	-	60	→	仏教学研究科 仏教学専攻(M)	30	-	60	
仏教学専攻(D)	7	-	21		仏教学専攻(D)	7	-	21	
人間学研究科 社会福祉学専攻(M)	5	-	10		人間学研究科 社会福祉学専攻(M)	5	-	10	
臨床心理学専攻(M)	18	-	36		臨床心理学専攻(M)	18	-	36	
人間科学専攻(M)	3	-	6		人間科学専攻(M)	3	-	6	
福祉・臨床心理学専攻(D)	3	-	9		福祉・臨床心理学専攻(D)	3	-	9	
文学研究科 宗教学専攻(M)	5	-	10		文学研究科 宗教学専攻(M)	5	-	10	
宗教学専攻(D)	2	-	6		宗教学専攻(D)	2	-	6	
史学専攻(M)	10	-	20		史学専攻(M)	10	-	20	
史学専攻(D)	2	-	6		史学専攻(D)	2	-	6	
国文学専攻(M)	3	-	6		国文学専攻(M)	3	-	6	
国文学専攻(D)	2	-	6		国文学専攻(D)	2	-	6	
比較文化専攻(M)	3	-	6		比較文化専攻(M)	3	-	6	
比較文化専攻(D)	2	-	6		比較文化専攻(D)	2	-	6	
計	95	-	208		計	95	-	208	

教育課程等の概要																	
(文学部日本文学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
第I類科目	文化	文化の探究A	1・2後	2		○			2	1					兼2		
		文化の探究B	1・2前	2		○									兼2		
		文化の探究C	1・2前	2		○									兼2		
		文化の探究D	1・2後	2		○									兼2		
		文化の探究E	1・2前	2		○									兼1		
		文化の探究F	1・2後	2		○									兼2		
		文化の探究G	1・2前	2		○									兼2		
		文化の探究H	1・2後	2		○									兼2		
		文化の探究I	1・2前	2		○									兼2		
	小計(9科目)	—	0	18	0	—			2	1	0	0	0	兼12			
	社会	社会の探究A	1・2前		2		○			0	0	0	0	0	0	兼2	
		社会の探究B	1・2後		2		○		兼2								
		社会の探究C	1・2前		2		○		兼2								
		社会の探究D	1・2後		2		○		兼2								
		社会の探究E	1・2後		2		○		兼2								
		社会の探究F	1・2前		2		○		兼2								
		社会の探究G	1・2後		2		○		兼1								
		社会の探究H	1・2前		2		○		兼1								
		社会の探究I	1・2前		2		○		兼1								
	小計(9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼11			
	自然	自然の探究A	1・2後		2		○			0	0	0	0	0	0	兼2	
		自然の探究B	1・2前		2		○		兼1								
		自然の探究C	1・2前後		2		○		兼2								
		自然の探究D	1・2前		2		○		兼1								
		自然の探究E	1・2後		2		○		兼1								
		自然の探究F	1・2後		2		○		兼1								
		自然の探究G	1・2前		2		○		兼1								
		自然の探究H	1・2前		2		○		兼1								
		自然の探究I	1・2後		2		○		兼1								
	小計(9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼7			
	地域	地域連携貢献論A	1前後	2			○			0	0	0	0	0	0	兼2	
		小計(1科目)	—	2	0	0	—									0	0
	学 び の 技 法	基礎科目	基礎技法A-1	1前	2		○			1	3						
基礎技法A-2			1後	2		○			3								
基礎技法A-3			2前	2		○			3								
基礎技法A-4			2後	2		○			3								
基礎技法B-1			1前	2		○			兼2								
基礎技法B-2			1後	2		○											兼2
基礎技法B-3			2前	2		○											兼2
基礎技法B-4			2後	2		○											兼2
基礎技法C			1前後	2		○											兼2
英語1			1前	1		○											兼2
英語2			1後	1		○											兼2
英語3			2前	1		○											兼2
英語4			2後	1		○											兼2
基礎国語A			2・3前		2		○										
基礎国語B	2・3後		2		○			兼2									

第 I 類科目	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1・2前後		2		○								兼1		
		基礎数学Ⅱ	1・2前後		2		○								兼1		
		基礎数学Ⅲ	2・3前後			2		○							兼1		
		基礎数学Ⅳ	2・3前後			2		○							兼1		
		基礎社会Ⅰ	1・2前後		2		○								兼1		
		基礎社会Ⅱ	1・2前後		2		○								兼1		
		基礎社会Ⅲ	2・3前後			2		○							兼1		
		基礎社会Ⅳ	2・3前後			2		○							兼1		
		小計 (23科目)	—	22	12	8	—			1	3	0	0	0	兼10		
	展開科目	学びの技法	情報処理A-1 (ワード)	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理A-2 (ワード)	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理B-1 (エクセル)	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理B-2 (エクセル)	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理C (プレゼンテーション)	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理D (データベース)	1・2前後		2		○								兼1	
			応用英語1	2・3前		1		○								兼1	
			応用英語2	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語 (中国語) 1	1・2前		1		○								兼2	
			世界の言語 (中国語) 2	1・2後		1		○								兼2	
			世界の言語 (中国語) 3	2・3前		1		○								兼2	
			世界の言語 (中国語) 4	2・3後		1		○								兼2	
			世界の言語 (フランス語) 1	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語 (フランス語) 2	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語 (フランス語) 3	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語 (フランス語) 4	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語 (ドイツ語) 1	1・2前		1		○								兼2	
			世界の言語 (ドイツ語) 2	1・2後		1		○								兼2	
			世界の言語 (ドイツ語) 3	2・3前		1		○								兼2	
			世界の言語 (ドイツ語) 4	2・3後		1		○								兼2	
			世界の言語 (韓国語) 1	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語 (韓国語) 2	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語 (韓国語) 3	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語 (韓国語) 4	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語 (スペイン語) 1	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語 (スペイン語) 2	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語 (スペイン語) 3	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語 (スペイン語) 4	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語 (ヒンディ語) 1	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語 (ヒンディ語) 2	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語 (ヒンディ語) 3	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語 (ヒンディ語) 4	2・3後		1		○								兼1	
			英会話Ⅰ	1・2前		2		○									兼2
			英会話Ⅱ	1・2後		2		○									兼2
			英会話Ⅲ	2・3前		2		○									兼2
英会話Ⅳ	2・3後		2		○									兼2			
中国語会話Ⅰ	2・3前		2		○									兼1			
中国語会話Ⅱ	2・3後		2		○									兼1			
ドイツ語会話Ⅰ	2・3前		2		○									兼1			
ドイツ語会話Ⅱ	2・3後		2		○									兼1			
文章技法A	3前後		2		○									兼2			
文章技法B	3前後		2		○									兼1			
技法A (論理力)	3前後		2		○									兼1			
技法B (自己アピール)	3前後		2		○									兼1			
小計 (44科目)	—	0	62	0	—			0	0	0	0	0	兼23				

第Ⅰ類科目	留学生科目	日本語研究A	1・2前後		2		○				1				兼1
		日本語研究B	1・2前後		2		○								兼1
		日本語研究C	1・2前後		2		○								兼1
		日本語研究D	1・2前後		2		○								兼1
		日本語研究E	1・2前後		2		○								兼1
		日本語研究F	1・2前後		2		○								兼1
		日本語研究G	1・2前後		2		○								兼1
		日本語研究H	1・2前後		2		○								兼1
		日本語研究I	1・2前後		2		○								兼1
		日本文化研修	1・2前		2		○								兼1
小計 (10科目)		—	0	20	0	—				0	1	0	0	0	兼2
第Ⅱ類科目	基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1前	2			○			1	3				
		基礎ゼミナールⅡ	1後	2			○			1	3				
		基礎ゼミナールⅢ	2前	2			○			1	3				
		基礎ゼミナールⅣ	2後	2			○			1	3				
		日本文化総論	1後		2		○			1					
		日本文学基礎論	1前		2		○			1					
		日本語基礎論	1前		2		○			1					
		哲学・思想基礎論	1後		2		○								兼1
		宗教文化論	1前		2		○								兼1
		カルチュラルスタディーズ総論	1後		2		○								兼1
		文化人類学	1前		2		○								兼1
		表現文化論	1前		2		○								兼1
		小計 (12科目)		—	8	16	0	—			3	3	0	0	0
第Ⅱ類科目	専門別部門	基礎日本文学Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
		基礎日本文学Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
		基礎日本文学Ⅲ	1・2前		2		○				1				
		基礎日本文学Ⅳ	1・2後		2		○				1				
		基礎日本語Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
		基礎日本語Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
		基礎日本語Ⅲ	1・2前		2		○			1					
		基礎日本語Ⅳ	1・2後		2		○			1					
		古典文学研究Ⅰ	2・3前		2		○				1				
		古典文学研究Ⅱ	2・3後		2		○				1				
		古典文学研究Ⅲ	2・3前		2		○			2					
		古典文学研究Ⅳ	2・3後		2		○			2					
		古典文学研究Ⅴ	2・3前		2		○								兼1
		古典文学研究Ⅵ	2・3後		2		○								兼1
		詩歌研究Ⅰ	2・3前		2		○								兼1
		詩歌研究Ⅱ	2・3後		2		○								兼1
		近代文学研究Ⅰ	2・3前		2		○				1				
		近代文学研究Ⅱ	2・3後		2		○				1				
		近代文学研究Ⅲ	2・3前		2		○								兼1
		近代文学研究Ⅳ	2・3後		2		○								兼1
		近代文学研究Ⅴ	2・3前		2		○								兼1
		近代文学研究Ⅵ	2・3後		2		○								兼1
		日本語学研究Ⅰ	2・3前		2		○								兼1
		日本語学研究Ⅱ	2・3後		2		○								兼1
		日本語学研究Ⅲ	2・3前		2		○								兼1
		日本語学研究Ⅳ	2・3後		2		○								兼1
		音声学研究Ⅰ	2・3前		2		○								兼1
		音声学研究Ⅱ	2・3後		2		○								兼1
		言語学研究Ⅰ	2・3前		2		○								兼1
		言語学研究Ⅱ	2・3後		2		○								兼1
仏教文学Ⅰ	2・3前		2		○			1							
仏教文学Ⅱ	2・3後		2		○			1							
日本漢文学	2・3前		2		○			1							
日本文学課題研究Ⅰ	3前		2			○		1	3				兼1		
日本文学課題研究Ⅱ	3後		2			○		1	3				兼1		

第Ⅱ類科目	専門別部門	日本文学課題研究Ⅲ	4前		2			○		1	3				兼1
		日本文学課題研究Ⅳ	4後		2			○		1	3				兼1
		日本語学課題研究Ⅰ	3前		2			○		1					兼1
		日本語学課題研究Ⅱ	3後		2			○		1					兼1
		日本語学課題研究Ⅲ	4前		2			○		1					兼1
		日本語学課題研究Ⅳ	4後		2			○		1					兼1
	小計(41科目)		—	0	82	0		—		3	3	0	0	0	兼8
	関連教職部門	書写技術研究A	2・3・4前		2			○							兼1
		書写技術研究B	2・3・4後		2			○							兼1
	小計(2科目)		—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼1
卒業論文		4通	8				○		3	3					
小計(1科目)		—	8	0	0		—		3	3	0	0	0	0	
合計(161科目)		—	40	250	8		—		3	3	0	0	0	兼71	
学位又は称号		学士(日本文学)			学位又は学科の分野				文学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
第Ⅰ類科目36単位、第Ⅱ類科目88単位、合計124単位以上修得すること。ただし、30単位までは、他学科から充当することができる。 (履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位)								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(仏教学部仏教学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
第I類科目	文化	文化の探究A	1・2後	2		○								兼2	
		文化の探究B	1・2前	2		○			1					兼1	
		文化の探究C	1・2前	2		○								兼2	
		文化の探究D	1・2後	2		○								兼2	
		文化の探究E	1・2前	2		○								兼2	
		文化の探究F	1・2後	2		○								兼2	
		文化の探究G	1・2前	2		○			1	1					
		文化の探究H	1・2後	2		○			1	1					
		文化の探究I	1・2前	2		○									兼2
		小計(9科目)	—	0	18	0	—			2	1	0	0	0	兼12
	学びの窓口	社会	社会の探究A	1・2前	2		○								兼2
			社会の探究B	1・2後	2		○								兼2
			社会の探究C	1・2前	2		○								兼2
			社会の探究D	1・2後	2		○								兼2
			社会の探究E	1・2後	2		○								兼2
			社会の探究F	1・2前	2		○								兼2
			社会の探究G	1・2後	2		○								兼2
			社会の探究H	1・2前	2		○								兼1
			社会の探究I	1・2前	2		○								兼1
		小計(9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼14
	自然	自然	自然の探究A	1・2後	2		○								兼2
			自然の探究B	1・2前	2		○								兼1
			自然の探究C	1・2前後	2		○								兼2
			自然の探究D	1・2前	2		○								兼1
			自然の探究E	1・2後	2		○								兼1
			自然の探究F	1・2後	2		○								兼1
			自然の探究G	1・2前	2		○								兼1
			自然の探究H	1・2前	2		○								兼1
			自然の探究I	1・2後	2		○								兼1
		小計(9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼8
	地域	地域連携貢献論A	1前後	2		○									兼1
			小計(1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0
	学びの技法	基礎科目	基礎技法A-1	1前	2		○						5		
			基礎技法A-2	1後	2		○						5		
			基礎技法A-3	2前	2		○						5		
			基礎技法A-4	2後	2		○						5		
基礎技法B-1			1前	2		○								兼2	
基礎技法B-2			1後	2		○								兼2	
基礎技法B-3			2前	2		○								兼2	
基礎技法B-4			2後	2		○								兼2	
基礎技法C			1前後	2		○								兼2	
英語1			1前	1		○					1			兼1	
英語2			1後	1		○					1			兼1	
英語3			2前	1		○					1			兼1	
英語4			2後	1		○					1			兼1	
基礎国語A			2・3前	2		○								兼2	
基礎国語B			2・3後	2		○								兼1	

第Ⅰ類科目	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1・2前後		2		○														兼1			
		基礎数学Ⅱ	1・2前後		2		○															兼1		
		基礎数学Ⅲ	2・3前後			2		○														兼1		
		基礎数学Ⅳ	2・3前後			2		○														兼1		
		基礎社会Ⅰ	1・2前後		2			○														兼1		
		基礎社会Ⅱ	1・2前後		2			○															兼1	
		基礎社会Ⅲ	2・3前後			2		○															兼1	
		基礎社会Ⅳ	2・3前後			2		○															兼1	
		小計(23科目)		—	22	12	8		—		0	0	5	0	0								兼10	
	第Ⅰ類科目	学びの技法 展開科目	情報処理A-1(ワード)	1・2前後		2		○														兼2		
			情報処理A-2(ワード)	1・2前後		2		○															兼2	
			情報処理B-1(エクセル)	1・2前後		2		○															兼2	
			情報処理B-2(エクセル)	1・2前後		2		○																兼2
			情報処理C(プレゼンテーション)	1・2前後		2		○																兼2
			情報処理D(データベース)	1・2前後		2		○																兼1
			応用英語1	2・3前		1		○																兼1
			応用英語2	2・3後		1		○																兼1
			世界の言語(中国語)1	1・2前		1		○																兼2
			世界の言語(中国語)2	1・2後		1		○																兼2
			世界の言語(中国語)3	2・3前		1		○																兼2
			世界の言語(中国語)4	2・3後		1		○																兼2
			世界の言語(フランス語)1	1・2前		1		○																兼1
			世界の言語(フランス語)2	1・2後		1		○																兼1
			世界の言語(フランス語)3	2・3前		1		○																兼1
			世界の言語(フランス語)4	2・3後		1		○																兼1
			世界の言語(ドイツ語)1	1・2前		1		○																兼2
			世界の言語(ドイツ語)2	1・2後		1		○																兼2
			世界の言語(ドイツ語)3	2・3前		1		○																兼2
			世界の言語(ドイツ語)4	2・3後		1		○																兼2
			世界の言語(韓国語)1	1・2前		1		○																兼1
			世界の言語(韓国語)2	1・2後		1		○																兼1
			世界の言語(韓国語)3	2・3前		1		○																兼1
			世界の言語(韓国語)4	2・3後		1		○																兼1
			世界の言語(スペイン語)1	1・2前		1		○																兼1
			世界の言語(スペイン語)2	1・2後		1		○																兼1
			世界の言語(スペイン語)3	2・3前		1		○																兼1
			世界の言語(スペイン語)4	2・3後		1		○																兼1
			世界の言語(ヒンディ語)1	1・2前		1		○																兼1
			世界の言語(ヒンディ語)2	1・2後		1		○																兼1
			世界の言語(ヒンディ語)3	2・3前		1		○																兼1
			世界の言語(ヒンディ語)4	2・3後		1		○																兼1
			英会話Ⅰ	1・2前		2		○																兼2
			英会話Ⅱ	1・2後		2		○																兼2
			英会話Ⅲ	2・3前		2		○																兼2
			英会話Ⅳ	2・3後		2		○																兼2
中国語会話Ⅰ			2・3前		2		○																兼1	
中国語会話Ⅱ			2・3後		2		○																兼1	
ドイツ語会話Ⅰ			2・3前		2		○																兼1	
ドイツ語会話Ⅱ			2・3後		2		○																兼1	
文章技法A			3前後		2		○																兼2	
文章技法B			3前後		2		○																	兼1
技法A(論理力)			3前後		2		○																	兼1
技法B(自己アピール)			3前後		2		○																	兼1
小計(44科目)				—	0	62	0		—		0	0	0	0	0								兼25	

第Ⅰ類科目	留学生科目	日本語研究A	1・2前後	2	○										兼2		
		日本語研究B	1・2前後	2	○											兼1	
		日本語研究C	1・2前後	2	○											兼1	
		日本語研究D	1・2前後	2	○											兼1	
		日本語研究E	1・2前後	2	○											兼1	
		日本語研究F	1・2前後	2	○											兼1	
		日本語研究G	1・2前後	2	○											兼1	
		日本語研究H	1・2前後	2	○											兼1	
		日本語研究I	1・2前後	2	○											兼1	
		日本文化研修	1・2前	2	○											兼1	
		小計(10科目)	—	0	20	0	—				1	0	0	0	0	兼2	
第Ⅱ類科目	基礎部門	A群	基礎ゼミナールⅠ	1前	2			○		3	2	1					
			基礎ゼミナールⅡ	1後	2			○		4		2					
			基礎ゼミナールⅢ	2前	2			○		3	2	1					
			基礎ゼミナールⅣ	2後	2			○		4		2					
			基礎仏教学Ⅰ(初期仏教)	1前	4			○		1		1					
			基礎仏教学Ⅱ(大乘仏教)	1後	4			○			1	1	1				
			基礎仏教学Ⅲ(アジア仏教)	2前	4			○			1	1					
			基礎仏教学Ⅳ(日本仏教)	2後	4			○			2						
			仏教漢文Ⅰ	1前	2			○			2	3					
			仏教漢文Ⅱ	1後	2			○				2					兼3
			サンスクリット語研究Ⅰ	1前	2			○			1						兼3
	小計(11科目)	—	30	0	0	—			5	4	5	0	0		兼6		
	B群	サンスクリット語研究Ⅱ	1後	2			○									兼3	
		サンスクリット語研究Ⅲ	2前	2			○					1					
		サンスクリット語研究Ⅳ	2後	2			○				1						
		パーリ語研究Ⅰ	2・3前	2			○									兼1	
		パーリ語研究Ⅱ	2・3後	2			○									兼1	
		チベット語研究Ⅰ	2・3前	2			○					1					
		チベット語研究Ⅱ	2・3後	2			○					1					
	小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	1	1	0	0		兼4		
	専門部門	A群	仏教と社会	2・3前	2			○									
インド思想史概論			2・3後	2			○					1					
初期仏教研究			2・3前	2			○		1								
大乘仏教研究			2・3前	2			○					1					
大乘仏典研究			2・3後	2			○			1							
中国仏教研究			2・3前	2			○									兼1	
日本仏教研究			2・3後	2			○									兼1	
サンスクリット語文献Ⅰ			2・3前	2			○			1							
サンスクリット語文献Ⅱ			2・3後	2			○					1					
漢文論書研究			2・3前	2			○									兼1	
小計(10科目)		—	0	20	0	—			1	1	2	0	0		兼3		
B群		仏教文化総論	2・3後	2			○		1								
		仏教美術史研究A(彫刻)	2・3前	2			○									兼1	
	仏教美術史研究B(絵画)	2・3後	2			○									兼1		
	仏画研究A	2・3前	2			○									兼1		
仏画研究B	2・3後	2			○									兼1			
仏像研究A	2・3前	2			○									兼1			
仏像研究B	2・3後	2			○									兼1			
現代仏教文化研究	2・3前	2			○									兼1			
仏教芸能研究	2・3後	2			○									兼1			
仏教儀礼研究	2・3前	2			○									兼1			
仏教文学研究	2・3後	2			○									兼1			
仏教文化史研究	2・3前	2			○									兼1			
小計(12科目)	—	0	24	0	—			1	0	0	0	0		兼9			

第Ⅱ類科目	専門部門	D群	真言宗智山法儀研究Ⅲ	2前	2			○									兼1		
			真言宗智山法儀研究Ⅳ	2後	2			○											兼1
			真言宗智山伝道学Ⅰ	3・4前	2			○											兼1
			真言宗智山伝道学Ⅱ	3・4後	2			○											兼1
			真言宗智山悉曇Ⅰ	3・4前	2			○											兼1
			真言宗智山悉曇Ⅱ	3・4後	2			○											兼1
			浄土宗法儀研究Ⅰ	1前	2			○											兼2
			浄土宗法儀研究Ⅱ	1後	2			○											兼2
			浄土宗法儀研究Ⅲ	2前	2			○											兼2
			浄土宗法儀研究Ⅳ	2後	2			○											兼2
			浄土宗伝道学Ⅰ	3・4前	2			○				1							
			浄土宗伝道学Ⅱ	3・4後	2			○				1							
			浄土宗詠唱Ⅰ	2・3・4前	2			○											兼1
			浄土宗詠唱Ⅱ	2・3・4後	2			○											兼1
			時宗法儀研究Ⅰ	1前	1			○											兼1
			時宗法儀研究Ⅱ	1後	1			○											兼1
			時宗法儀研究Ⅲ	2前	1			○											兼1
			時宗法儀研究Ⅳ	2後	1			○											兼1
	小計(36科目)	—	0	68	0	—				0	1	0	0	0			兼22		
	第Ⅱ類科目	コース 共通部門	天台仏教と文化	2・3後	2				○										
			浄土教と文化	2・3後	2				○						1				
			密教と文化	2・3前	2				○										兼1
			時宗教理体系	2・3前	4				○										兼1
			時宗教団史研究	2・3後	4				○										兼1
			日蓮教学概論A	2・3前	2				○										兼1
			日蓮教学概論B	2・3後	2				○										兼1
			禅学概論A	2・3前	2				○										兼1
			禅学概論B	2・3後	2				○										兼1
			仏教の人権論	2・3前	2				○				1						
			教育と宗教	2・3前	2				○				1						
			仏教社会福祉論	2・3後	2				○				1						
			宗教法人法	2・3前	2				○			1							
			社会教化総論	2・3前	2				○										兼1
			現代社会と仏教	2・3・4後	2				○										兼1
			社会教化方法論	2・3後	2				○						1				
			社会教化演習A	2・3前	2					○									兼1
社会教化演習B			2・3後	2					○									兼1	
社会教化演習C			2・3前	2					○									兼1	
社会教化演習D			2・3後	2					○									兼1	
仏教研修Ⅰ			1・2・3・4集中	2					○					1					
仏教研修Ⅱ			1・2・3・4集中	2					○		1								
仏教フィールドワークA			1・2・3・4集中	2					○		1								
仏教フィールドワークB			1・2・3・4集中	2					○		1								
仏教フィールドワークC			1・2・3・4集中	2					○		1								
仏教フィールドワークD			1・2・3・4集中	2					○		1								
選択集Ⅰ			2・3前	2					○									兼1	
選択集Ⅱ			2・3後	2					○									兼1	
小計(28科目)	—	0	60	0	—				3	3	3	0	0			兼11			
第Ⅱ類科目	応用部門	仏教学専門研究Ⅰ	3前	2				○		2		3							
		仏教学専門研究Ⅱ	3後	2				○		2		3							
		仏教学専門研究Ⅲ	4前	2				○		3		2							
		仏教学専門研究Ⅳ	4後	2				○		3		2							
		仏教文化専門研究Ⅰ	3前	2				○		2	1	1							
		仏教文化専門研究Ⅱ	3後	2				○		2	1	1							
		仏教文化専門研究Ⅲ	4前	2				○		2	1	1							
		仏教文化専門研究Ⅳ	4後	2				○		2	1	1							
		天台学専門研究Ⅰ	3前	2				○		1	1	1							
		天台学専門研究Ⅱ	3後	2				○		1	1	1							
		天台学専門研究Ⅲ	4前	2				○		1	1	1							

第Ⅱ類科目	応用部門	天台学専門研究Ⅳ	4後		2			○		1	1	1					
		真言豊山学専門研究Ⅰ	3前		2			○		2	2						
		真言豊山学専門研究Ⅱ	3後		2			○		2	2						
		真言豊山学専門研究Ⅲ	4前		2			○		2	2						
		真言豊山学専門研究Ⅳ	4後		2			○		2	2						
		真言智山学専門研究Ⅰ	3前		2			○		3							
		真言智山学専門研究Ⅱ	3後		2			○		3							
		真言智山学専門研究Ⅲ	4前		2			○		3							
		真言智山学専門研究Ⅳ	4後		2			○		3							
		浄土学専門研究Ⅰ	3前		2			○		1	2	1					
		浄土学専門研究Ⅱ	3後		2			○		1	2	1					
		浄土学専門研究Ⅲ	4前		2			○		1	2	1					
		浄土学専門研究Ⅳ	4後		2			○		1	2	1					
		小計(24科目)	—	0	48	0			—		11	5	5	0	0	0	
	教職関連部門	日本史概説A	2・3・4前		2			○									兼1
		日本史概説B	2・3・4後		2			○									兼1
		西洋史概説	2・3・4前後		4			○									兼2
		東洋史概説	2・3・4前後		4			○									兼2
		人文地理学A	2・3・4前		2			○									兼1
		人文地理学B	2・3・4後		2			○									兼1
		自然地理学A	2・3・4前		2			○									兼1
		自然地理学B	2・3・4後		2			○									兼1
		地誌学	2・3・4前後		2			○									兼2
		法学概論(国際法を含む。)	2・3・4前		2			○									兼1
政治学概論(国際政治を含む。)		2・3・4後		2			○									兼1	
社会学入門		2・3・4前		4			○									兼1	
経済学概論(国際経済を含む。)		2・3・4後		2			○									兼1	
哲学入門		2・3・4前		2			○									兼1	
現代倫理学		2・3・4後		2			○									兼1	
宗教学入門		2・3・4前		2			○									兼1	
宗教史Ⅰ		2・3・4後		2			○									兼1	
宗教史Ⅱ		2・3・4後		2			○									兼1	
心理学の基礎A		2・3・4後		2			○									兼2	
小計(19科目)	—	0	44	0			—		0	0	0	0	0	0	兼19		
卒業論文	卒業論文	4通		8			○		14	6	6						
	卒業研究	4通		8			○		14	6	6						
小計(2科目)	—	0	16	0			—		14	6	6	0	0	0			
合計(294科目)		—	54	522	8		—		14	6	6	0	0	0	兼130		
学位又は称号		学士(仏教学)			学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
第Ⅰ類科目36単位、第Ⅱ類科目88単位、合計124単位以上修得すること。ただし、30単位までは、他学科から充当することができる。 (履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位)								1学年の学期区分		2学期							
								1学期の授業期間		15週							
								1時限の授業時間		90分							

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要

（人間学部臨床心理学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
第I類科目	文化	文化の探究A	1・2後	2		○									兼2
		文化の探究B	1・2前	2		○									兼2
		文化の探究C	1・2前	2		○									兼2
		文化の探究D	1・2後	2		○									兼2
		文化の探究E	1・2前	2		○									兼2
		文化の探究F	1・2後	2		○									兼2
		文化の探究G	1・2前	2		○									兼2
		文化の探究H	1・2後	2		○									兼2
		文化の探究I	1・2前	2		○									兼2
	小計（9科目）	—	—	0	18	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼15
	社会	社会の探究A	1・2前	2		○				1		1			兼1
		社会の探究B	1・2後	2		○									兼1
		社会の探究C	1・2前	2		○									兼2
		社会の探究D	1・2後	2		○									兼2
		社会の探究E	1・2後	2		○									兼2
		社会の探究F	1・2前	2		○									兼2
		社会の探究G	1・2後	2		○									兼2
		社会の探究H	1・2前	2		○									兼1
		社会の探究I	1・2前	2		○									兼1
	小計（9科目）	—	—	0	18	0	—	—	1	0	1	0	0	兼12	
	自然	自然の探究A	1・2後	2		○									兼2
		自然の探究B	1・2前	2		○									兼1
		自然の探究C	1・2前後	2		○									兼2
		自然の探究D	1・2前	2		○									兼1
		自然の探究E	1・2後	2		○									兼1
		自然の探究F	1・2後	2		○									兼1
		自然の探究G	1・2前	2		○									兼1
		自然の探究H	1・2前	2		○									兼1
		自然の探究I	1・2後	2		○									兼1
	小計（9科目）	—	—	0	18	0	—	—	0	0	0	0	0	兼8	
	地域	地域連携貢献論A	1前後	2		○									兼1
		小計（1科目）	—	2	0	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼1
	学部の技法	基礎科目	基礎技法A-1	1前	2		○			2		2			
			基礎技法A-2	1後	2		○			2		2			
			基礎技法A-3	2前	2		○			2		2			
			基礎技法A-4	2後	2		○			2		2			
基礎技法B-1			1前	2		○								兼2	
基礎技法B-2			1後	2		○								兼2	
基礎技法B-3			2前	2		○								兼2	
基礎技法B-4			2後	2		○								兼2	
基礎技法C			1前後	2		○								兼2	
英語1			1前	1		○								兼2	
英語2			1後	1		○								兼2	
英語3			2前	1		○								兼2	
英語4			2後	1		○								兼2	
基礎国語A			2・3前	2		○								兼2	
基礎国語B	2・3後	2		○								兼1			

第I類科目	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1・2前後		2		○												兼1	
		基礎数学Ⅱ	1・2前後		2		○												兼1	
		基礎数学Ⅲ	2・3前後			2		○											兼1	
		基礎数学Ⅳ	2・3前後			2		○											兼1	
		基礎社会Ⅰ	1・2前後		2		○												兼1	
		基礎社会Ⅱ	1・2前後		2		○												兼1	
		基礎社会Ⅲ	2・3前後			2		○											兼1	
		基礎社会Ⅳ	2・3前後			2		○											兼1	
		小計(23科目)	—	22	12	8	—			2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	兼11
	学びの技法 展開科目	情報処理A-1(ワード)	1・2前後		2		○													兼2
		情報処理A-2(ワード)	1・2前後		2		○													兼2
		情報処理B-1(エクセル)	1・2前後		2		○													兼2
		情報処理B-2(エクセル)	1・2前後		2		○													兼2
		情報処理C(プレゼンテーション)	1・2前後		2		○													兼2
		情報処理D(データベース)	1・2前後		2		○													兼1
		応用英語1	2・3前		1		○													兼1
		応用英語2	2・3後		1		○													兼1
		世界の言語(中国語)1	1・2前		1		○													兼2
		世界の言語(中国語)2	1・2後		1		○													兼2
		世界の言語(中国語)3	2・3前		1		○													兼2
		世界の言語(中国語)4	2・3後		1		○													兼2
		世界の言語(フランス語)1	1・2前		1		○													兼1
		世界の言語(フランス語)2	1・2後		1		○													兼1
		世界の言語(フランス語)3	2・3前		1		○													兼1
		世界の言語(フランス語)4	2・3後		1		○													兼1
		世界の言語(ドイツ語)1	1・2前		1		○													兼2
		世界の言語(ドイツ語)2	1・2後		1		○													兼2
		世界の言語(ドイツ語)3	2・3前		1		○													兼2
		世界の言語(ドイツ語)4	2・3後		1		○													兼2
		世界の言語(韓国語)1	1・2前		1		○													兼1
		世界の言語(韓国語)2	1・2後		1		○													兼1
		世界の言語(韓国語)3	2・3前		1		○													兼1
		世界の言語(韓国語)4	2・3後		1		○													兼1
		世界の言語(スペイン語)1	1・2前		1		○													兼1
		世界の言語(スペイン語)2	1・2後		1		○													兼1
		世界の言語(スペイン語)3	2・3前		1		○													兼1
		世界の言語(スペイン語)4	2・3後		1		○													兼1
		世界の言語(ヒンディ語)1	1・2前		1		○													兼1
		世界の言語(ヒンディ語)2	1・2後		1		○													兼1
		世界の言語(ヒンディ語)3	2・3前		1		○													兼1
		世界の言語(ヒンディ語)4	2・3後		1		○													兼1
		英会話Ⅰ	1・2前		2		○													兼2
		英会話Ⅱ	1・2後		2		○													兼2
		英会話Ⅲ	2・3前		2		○													兼2
英会話Ⅳ	2・3後		2		○													兼2		
中国語会話Ⅰ	2・3前		2		○													兼1		
中国語会話Ⅱ	2・3後		2		○													兼1		
ドイツ語会話Ⅰ	2・3前		2		○													兼1		
ドイツ語会話Ⅱ	2・3後		2		○													兼1		
文章技法A	3前後		2		○													兼2		
文章技法B	3前後		2		○													兼1		
技法A(論理力)	3前後		2		○													兼1		
技法B(自己アピール)	3前後		2		○													兼1		
小計(44科目)	—	0	62	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼24		

第Ⅰ類科目	留学生科目	日本語研究A	1・2前後	2		○								兼2	
		日本語研究B	1・2前後	2		○									兼1
		日本語研究C	1・2前後	2		○									兼1
		日本語研究D	1・2前後	2		○									兼1
		日本語研究E	1・2前後	2		○									兼1
		日本語研究F	1・2前後	2		○									兼1
		日本語研究G	1・2前後	2		○									兼1
		日本語研究H	1・2前後	2		○									兼1
		日本語研究I	1・2前後	2		○									兼1
		日本文化研修	1・2前	2		○									兼1
		小計(10科目)	—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	0
第Ⅱ類科目	基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1前	2			○		5	1					
		基礎ゼミナールⅡ	1後	2			○		5	1					
		臨床心理学概論	1前後	2			○			1	1				
		心理学	1前後	2			○								兼2
		心理学研究法	1前後	2			○				1				兼1
		心理査定法	2前後	2			○		1						
		小計(6科目)	—	12	0	0	—		5	1	2	0	0		兼3
第Ⅱ類科目	方法・研究部門	対人社会心理学	1・2・3・4後	2		○									兼1
		パーソナリティ心理学	1・2・3・4後	2		○									兼1
		認知心理学	1・2・3・4前	2		○									兼1
		発達心理学	1・2・3・4前	2		○									兼1
		発達臨床心理学	2・3・4前	4		○					1				
		深層心理学	2・3・4後	4		○			1						
		精神医学	2・3・4後	4		○			1						
		人間性心理学	2・3・4前	4		○			1						
		家族臨床心理学	2・3・4後	2		○					1				
		教育臨床心理学	2・3・4後	2		○			1						
		非行犯罪臨床心理学	2・3・4後	2		○			1						
		病院臨床心理学	2・3・4前	2		○			1						
		産業臨床心理学	2・3・4前	2		○			1						
		臨床神経心理学	2・3・4後	2		○			1						
		コミュニティ心理学	2・3・4後	2		○			1						
		臨床心理学実務特講	2・3・4後	2		○					1				
		臨床心理学技法特講	2・3・4前	2		○					1				
		臨床心理学理論特講	2・3・4後	2		○			1						
		児童福祉学	2・3・4前	2		○									兼1
		医学概論	2・3・4後	2		○									兼1
		医療福祉論	3・4前	2		○									兼1
		心理療法論	3・4後	4		○			2						
		心理援助論	3・4前	2		○					1				
		発達援助論	3・4前	2		○			1						
		関係法規	3・4後	2		○			1						
小計(25科目)	—	0	60	0	—		9	0	2	0	0		兼6		
第Ⅱ類科目	実習部門 演習・	心理学基礎演習	2前後	4			○	4	1	1					
		臨床心理学基礎実習Ⅰ	2前	1			○	2							
		臨床心理学基礎実習Ⅱ	2後	1			○	2							
		小計(3科目)	—	6	0	0	—	4	1	1	0	0	0		
第Ⅱ類科目	ナール部門 専門ゼミ	臨床心理学専門ゼミナールⅠ	3前	2			○	9	1	2					
		臨床心理学専門ゼミナールⅡ	3後	2			○	9	1	2					
		臨床心理学専門ゼミナールⅢ	4前	2			○	8	1	2					
		臨床心理学専門ゼミナールⅣ	4後	2			○	8	1	2					
		小計(4科目)	—	8	0	0	—	9	1	2	0	0	0		

第Ⅱ類科目	応用部門	発達心理査定演習	3・4後	4		○		1								
		心理臨床査定演習	3・4前後	4		○		1		1						
		臨床心理学技法演習	3・4前後	4		○		4	1	1						
		社会調査研究法	3・4後	2		○		1							兼1	
		臨床調査研究法	3・4前	2		○		1								
		臨床心理学演習（インターン）	3・4通	4			○				1					
		臨床心理学特殊研究ゼミナールA	3・4前	2			○				1					
		臨床心理学特殊研究ゼミナールB	3・4後	2			○			1						
		臨床心理学特殊研究ゼミナールC	3・4前	2			○		1							
		臨床心理学特殊研究ゼミナールD	3・4後	2			○		1							
		原書講読A	3・4前	1			○					1				
		原書講読B	3・4後	1			○		1							
		原書講読C	3・4前	1			○					1				
		原書講読D	3・4後	1			○									
小計（14科目）	—	0	32	0	—		8	1	2	0	0			兼1		
教職関連部門	法学概論（国際法を含む。）	2・3・4前	2		○										兼1	
	政治学概論（国際政治を含む。）	2・3・4後	2		○										兼1	
	社会学入門	2・3・4前	4		○										兼1	
	経済学概論（国際経済を含む。）	2・3・4後	2		○										兼1	
	哲学入門	2・3・4前	2		○										兼1	
	現代倫理学	2・3・4後	2		○										兼1	
	宗教学入門	2・3・4前	2		○										兼1	
小計（7科目）	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0			兼7		
卒業論文	卒業論文	4通	8			○		9	1	2						
	卒業研究	4通	8			○		9	1	2						
小計（2科目）	—	0	16	0	—		9	1	2	0	0			0		
合計（166科目）			—	50	272	8	—	9	1	2	0	0		兼73		
学位又は称号		学士（臨床心理学）			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
第Ⅰ類科目36単位、第Ⅱ類科目88単位、合計124単位以上修得すること。ただし、30単位までは、他学科から充当することができる。 （履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位）							1学年の学期区分				2学期					
							1学期の授業期間				15週					
							1時限の授業時間				90分					

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(文学部人文学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
第I類科目	文化	文化の探究A	1・2後	2		○									兼2
		文化の探究B	1・2前	2		○									兼2
		文化の探究C	1・2前	2		○									兼2
		文化の探究D	1・2後	2		○									兼2
		文化の探究E	1・2前	2		○			2						
		文化の探究F	1・2後	2		○			1	1					
		文化の探究G	1・2前	2		○									兼2
		文化の探究H	1・2後	2		○									兼2
		文化の探究I	1・2前	2		○					1				兼1
	小計 (9科目)	—	0	18	0	—			3	2	0	0	0	0	兼13
	社会	社会の探究A	1・2前	2		○									兼2
		社会の探究B	1・2後	2		○									兼2
		社会の探究C	1・2前	2		○									兼2
		社会の探究D	1・2後	2		○									兼2
		社会の探究E	1・2後	2		○									兼2
		社会の探究F	1・2前	2		○									兼2
		社会の探究G	1・2後	2		○									兼2
		社会の探究H	1・2前	2		○									兼1
		社会の探究I	1・2前	2		○									兼1
	小計 (9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼14
	自然	自然の探究A	1・2後	2		○									兼2
		自然の探究B	1・2前	2		○									兼1
		自然の探究C	1・2前後	2		○									兼2
		自然の探究D	1・2前	2		○									兼1
		自然の探究E	1・2後	2		○									兼1
		自然の探究F	1・2後	2		○									兼1
		自然の探究G	1・2前	2		○									兼1
		自然の探究H	1・2前	2		○									兼1
		自然の探究I	1・2後	2		○									兼1
	小計 (9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8
	地域	地域連携貢献論A	1前後	2		○									兼1
		小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
	学 び の 技 法	基礎科目	基礎技法A-1	1前	2		○			2	5				
			基礎技法A-2	1後	2		○			2	5				
			基礎技法A-3	2前	2		○			2	5				
			基礎技法A-4	2後	2		○			2	5				
基礎技法B-1			1前	2		○								兼2	
基礎技法B-2			1後	2		○								兼2	
基礎技法B-3			2前	2		○								兼2	
基礎技法B-4			2後	2		○								兼2	
基礎技法C			1前後	2		○								兼2	
英語1			1前	1		○								兼2	
英語2			1後	1		○								兼2	
英語3			2前	1		○								兼2	
英語4			2後	1		○								兼2	
基礎国語A			2・3前	2		○								兼2	
基礎国語B	2・3後	2		○			1								

第 I 類科目	基礎科目	基礎数学 I	1・2前後		2		○								兼1	
		基礎数学 II	1・2前後		2		○								兼1	
		基礎数学 III	2・3前後			2		○							兼1	
		基礎数学 IV	2・3前後			2		○							兼1	
		基礎社会 I	1・2前後		2		○								兼1	
		基礎社会 II	1・2前後		2		○								兼1	
		基礎社会 III	2・3前後			2		○							兼1	
		基礎社会 IV	2・3前後			2		○							兼1	
		小計 (23科目)	—	22	12	8	—			3	5	0	0	0	兼10	
	展開科目	学びの技法	情報処理A-1 (ワード)	1・2前後		2		○								兼2
			情報処理A-2 (ワード)	1・2前後		2		○								兼2
			情報処理B-1 (エクセル)	1・2前後		2		○								兼2
			情報処理B-2 (エクセル)	1・2前後		2		○								兼2
			情報処理C (プレゼンテーション)	1・2前後		2		○								兼2
			情報処理D (データベース)	1・2前後		2		○								兼1
			応用英語 1	2・3前		1		○								兼1
			応用英語 2	2・3後		1		○								兼1
			世界の言語 (中国語) 1	1・2前		1		○								兼2
			世界の言語 (中国語) 2	1・2後		1		○								兼2
			世界の言語 (中国語) 3	2・3前		1		○								兼2
			世界の言語 (中国語) 4	2・3後		1		○								兼2
			世界の言語 (フランス語) 1	1・2前		1		○								兼1
			世界の言語 (フランス語) 2	1・2後		1		○								兼1
			世界の言語 (フランス語) 3	2・3前		1		○								兼1
			世界の言語 (フランス語) 4	2・3後		1		○								兼1
			世界の言語 (ドイツ語) 1	1・2前		1		○			1					兼1
			世界の言語 (ドイツ語) 2	1・2後		1		○			1					兼1
			世界の言語 (ドイツ語) 3	2・3前		1		○			1					兼1
			世界の言語 (ドイツ語) 4	2・3後		1		○			1					兼1
			世界の言語 (韓国語) 1	1・2前		1		○								兼1
			世界の言語 (韓国語) 2	1・2後		1		○								兼1
			世界の言語 (韓国語) 3	2・3前		1		○								兼1
			世界の言語 (韓国語) 4	2・3後		1		○								兼1
			世界の言語 (スペイン語) 1	1・2前		1		○								兼1
			世界の言語 (スペイン語) 2	1・2後		1		○								兼1
			世界の言語 (スペイン語) 3	2・3前		1		○								兼1
			世界の言語 (スペイン語) 4	2・3後		1		○								兼1
			世界の言語 (ヒンディ語) 1	1・2前		1		○								兼1
			世界の言語 (ヒンディ語) 2	1・2後		1		○								兼1
			世界の言語 (ヒンディ語) 3	2・3前		1		○								兼1
			世界の言語 (ヒンディ語) 4	2・3後		1		○								兼1
			英会話 I	1・2前		2		○								兼2
			英会話 II	1・2後		2		○								兼2
			英会話 III	2・3前		2		○								兼2
英会話 IV	2・3後		2		○								兼2			
中国語会話 I	2・3前		2		○								兼1			
中国語会話 II	2・3後		2		○								兼1			
ドイツ語会話 I	2・3前		2		○								兼1			
ドイツ語会話 II	2・3後		2		○								兼1			
文章技法 A	3前後		2		○								兼2			
文章技法 B	3前後		2		○								兼1			
技法 A (論理学)	3前後		2		○								兼1			
技法 B (自己アピール)	3前後		2		○								兼1			
小計 (44科目)	—	0	62	0	—			1	0	0	0	0	兼24			

第 I 類科目	留学生科目	日本語研究 A	1・2前後		2		○			1	1									
		日本語研究 B	1・2前後		2		○				1	1								
		日本語研究 C	1・2前後		2		○					1								
		日本語研究 D	1・2前後		2		○					1								
		日本語研究 E	1・2前後		2		○					1								
		日本語研究 F	1・2前後		2		○					1								
		日本語研究 G	1・2前後		2		○					1								
		日本語研究 H	1・2前後		2		○					1								
		日本語研究 I	1・2前後		2		○					1								
		日本文化研修	1・2前		2		○					1							兼1	
		小計 (10科目)		—	0	20	0	—			0	1	1	0	0					兼1
第 II 類科目	基礎部門	基礎ゼミナール I	1前	2			○			2	4									
		基礎ゼミナール II	1後	2			○			2	4									
		基礎ゼミナール III	2前	2			○			4	1									
		基礎ゼミナール IV	2後	2			○			4	1									
		日本文化総論	1後		2		○			1										
		日本文学基礎論	1前		2		○			1										
		日本語基礎論	1前		2		○			1										
		哲学・思想基礎論	1後		2		○												兼1	
		宗教文化論	1前		2		○					1								
		カルチュラルスタディーズ総論	1後		2		○			1										
		文化人類学	1前		2		○												兼1	
		表現文化論	1前		2		○					1								
		小計 (12科目)		—	8	16	0	—			8	5	0	0	0					兼2
第 II 類科目	分野別部門	基礎日本文学 I	1・2前		2		○												兼1	
		基礎日本文学 II	1・2後		2		○												兼1	
		基礎日本文学 III	1・2前		2		○				1									
		基礎日本文学 IV	1・2後		2		○				1									
		基礎日本語 I	1・2前		2		○												兼1	
		基礎日本語 II	1・2後		2		○												兼1	
		基礎日本語 III	1・2前		2		○			1										
		基礎日本語 IV	1・2後		2		○			1										
		古典文学研究 I	2・3前		2		○					1								
		古典文学研究 II	2・3後		2		○					1								
		古典文学研究 III	2・3前		2		○			2										
		古典文学研究 IV	2・3後		2		○			2										
		古典文学研究 V	2・3前		2		○													兼1
		古典文学研究 VI	2・3後		2		○													兼1
		詩歌研究 I	2・3前		2		○													兼1
		詩歌研究 II	2・3後		2		○													兼1
		近代文学研究 I	2・3前		2		○				1									
		近代文学研究 II	2・3後		2		○				1									
		近代文学研究 III	2・3前		2		○													兼1
		近代文学研究 IV	2・3後		2		○													兼1
		近代文学研究 V	2・3前		2		○													兼1
		近代文学研究 VI	2・3後		2		○													兼1
		日本語学研究 I	2・3前		2		○													兼1
		日本語学研究 II	2・3後		2		○													兼1
		日本語学研究 III	2・3前		2		○													兼1
		日本語学研究 IV	2・3後		2		○													兼1
		音声学研究 I	2・3前		2		○													兼1
		音声学研究 II	2・3後		2		○													兼1
		言語学研究 I	2・3前		2		○													兼1
		言語学研究 II	2・3後		2		○													兼1
		仏教文学 I	2・3前		2		○				1									
仏教文学 II	2・3後		2		○				1											
日本漢文学	2・3前		2		○				1											
日本文学課題研究 I	3前		2			○			1	3								兼1		
日本文学課題研究 II	3後		2			○			1	3								兼1		

第Ⅱ類科目	分野別部門	日本文学課題研究Ⅲ	4前		2			○		1	3					兼1
		日本文学課題研究Ⅳ	4後		2			○		1	3					兼1
		日本語学課題研究Ⅰ	3前		2			○		1						兼1
		日本語学課題研究Ⅱ	3後		2			○		1						兼1
		日本語学課題研究Ⅲ	4前		2			○		1						兼1
		日本語学課題研究Ⅳ	4後		2			○		1						兼1
		哲学の歴史Ⅰ	1・2前		2			○								兼1
		哲学の歴史Ⅱ	1・2後		2			○		1						
		中国の哲学	1・2前		2			○		1						
		現代哲学Ⅰ	1・2前		2			○		1						
		現代哲学Ⅱ	1・2後		2			○								兼1
		現代倫理学Ⅰ	1・2前		2			○								兼1
		現代倫理学Ⅱ	1・2後		2			○								兼1
		宗教史Ⅰ	1・2後		2			○				1				
		宗教史Ⅱ	1・2後		2			○				1				
		宗教文化研究A	1・2前		2			○				1				
		宗教文化研究B	1・2後		2			○				1				
		宗教文化研究C	1・2前		2			○		1						
		宗教文化研究D	1・2後		2			○		1						
		現代宗教論	1・2前		2			○				1				
		比較宗教論	1・2後		2			○		1						
		哲学・宗教課題研究Ⅰ	3前		2				○	3	1					
		哲学・宗教課題研究Ⅱ	3後		2				○	3	1					兼1
		哲学・宗教課題研究Ⅲ	4前		2				○							兼1
		哲学・宗教課題研究Ⅳ	4後		2				○							兼1
		異文化の理解A	1後		2			○		1						
		異文化の理解B	1後		2			○		1						
		異文化の理解C	1後		2			○				1				
		異文化の理解D	1後		2			○								兼1
		異文化研究の展開Ⅰ-A	2・3前		2			○		1						
		異文化研究の展開Ⅰ-B	2・3前		2			○		1						
		異文化研究の展開Ⅰ-C	2・3前		2			○				1				
		異文化研究の展開Ⅰ-D	2・3前		2			○		1						
		異文化研究の展開Ⅰ-E	2・3前		2			○		1						
		異文化研究の展開Ⅱ-A	2・3後		2			○		1						
		異文化研究の展開Ⅱ-B	2・3後		2			○		1						
		異文化研究の展開Ⅱ-C	2・3後		2			○				1				
		異文化研究の展開Ⅱ-D	2・3後		2			○		1						
		異文化研究の展開Ⅱ-E	2・3後		2			○		1						
		異文化特別研究Ⅰ	1・2前		2			○		2	1					
		異文化特別研究Ⅱ	1・2後		2			○		2	1					
異文化特別研究Ⅲ	2・3前		2			○								兼1		
異文化特別研究Ⅳ	2・3後		2			○								兼1		
ワークショップⅠ	2・3前		2				○							兼1		
ワークショップⅡ	2・3後		2				○							兼1		
異文化課題研究Ⅰ	3前		2				○	4	1							
異文化課題研究Ⅱ	3後		2				○	4	1							
異文化課題研究Ⅲ	4前		2				○	4								
異文化課題研究Ⅳ	4後		2				○	4								
小計 (84科目)	—	0	168	0	—	—	—	10	5	0	0	0	0	兼14		

第Ⅱ類科目	教職関連部門	法学概論（国際法を含む。）	2・3・4前		2		○								兼1
		政治学概論（国際政治を含む。）	2・3・4後		2		○								兼1
		社会学入門	2・3・4前		4		○								兼1
		経済学概論（国際経済を含む。）	2・3・4後		2		○								兼1
		哲学入門	2・3・4前		2		○								兼1
		宗教学入門	2・3・4前		2		○								兼1
		心理学の基礎A	2・3・4後		2		○								兼2
		書写技術研究A	2・3・4前		2		○								兼1
		書写技術研究B	2・3・4後		2		○								兼1
		小計（9科目）		—	0	20	0	—		0	0	0	0	0	0
第Ⅰ類科目	卒業論文	4通		8			○		10	5					
	卒業研究	4通		8			○		10	5					
	小計（2科目）		—	0	16	0	—		10	5	0	0	0	0	
合計（212科目）				—	32	368	8	—	10	5	1	0	0	0	兼79
学位又は称号		学士（人文学）			学位又は学科の分野				文学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
第Ⅰ類科目36単位、第Ⅱ類科目88単位、合計124単位以上修得すること。ただし、30単位までは、他学科から充当することができる。 （履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位）								1 学年の学期区分				2学期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業時間				90分			

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要

（文学部歴史学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
第I類科目	文化	文化の探究A	1・2後	2		○										兼2
		文化の探究B	1・2前	2		○										兼2
		文化の探究C	1・2前	2		○			1		1					
		文化の探究D	1・2後	2		○			2							
		文化の探究E	1・2前	2		○										兼2
		文化の探究F	1・2後	2		○										兼2
		文化の探究G	1・2前	2		○										兼2
		文化の探究H	1・2後	2		○										兼2
		文化の探究I	1・2前	2		○										兼2
	小計（9科目）	—	0	18	0	—	—	—	3	0	1	0	0		兼11	
	社会	社会の探究A	1・2前	2		○										兼2
		社会の探究B	1・2後	2		○										兼2
		社会の探究C	1・2前	2		○										兼2
		社会の探究D	1・2後	2		○										兼2
		社会の探究E	1・2後	2		○										兼2
		社会の探究F	1・2前	2		○										兼2
		社会の探究G	1・2後	2		○										兼2
		社会の探究H	1・2前	2		○										兼1
		社会の探究I	1・2前	2		○										兼1
	小計（9科目）	—	0	18	0	—	—	—	0	0	0	0	0		兼14	
	自然	自然の探究A	1・2後	2		○										兼2
		自然の探究B	1・2前	2		○										兼1
		自然の探究C	1・2前後	2		○										兼2
		自然の探究D	1・2前	2		○			1							
		自然の探究E	1・2後	2		○			1							
		自然の探究F	1・2後	2		○										兼1
		自然の探究G	1・2前	2		○										兼1
		自然の探究H	1・2前	2		○										兼1
		自然の探究I	1・2後	2		○										兼1
	小計（9科目）	—	0	18	0	—	—	—	1	0	0	0	0		兼8	
	地域	地域連携貢献論A	1前後	2		○										兼1
		小計（1科目）	—	2	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0		兼1
	学部の技法	基礎科目	基礎技法A-1	1前	2		○			4		1				
			基礎技法A-2	1後	2		○			4		1				
			基礎技法A-3	2前	2		○			4		1				
			基礎技法A-4	2後	2		○			4		1				
基礎技法B-1			1前	2		○										兼2
基礎技法B-2			1後	2		○										兼2
基礎技法B-3			2前	2		○										兼2
基礎技法B-4			2後	2		○										兼2
基礎技法C			1前後	2		○										兼2
英語1			1前	1		○										兼2
英語2			1後	1		○										兼2
英語3			2前	1		○										兼2
英語4			2後	1		○										兼2
基礎国語A			2・3前	2		○										兼2
基礎国語B	2・3後	2		○										兼1		

第I類科目	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1・2前後	2	○								兼1		
		基礎数学Ⅱ	1・2前後	2	○									兼1	
		基礎数学Ⅲ	2・3前後	2	○									兼1	
		基礎数学Ⅳ	2・3前後	2	○									兼1	
		基礎社会Ⅰ	1・2前後	2	○									兼1	
		基礎社会Ⅱ	1・2前後	2	○									兼1	
		基礎社会Ⅲ	2・3前後	2	○									兼1	
		基礎社会Ⅳ	2・3前後	2	○									兼1	
		小計(23科目)	—	22	12	8	—		4	0	1	0	0	0	兼11
	学びの技法 展開科目	情報処理A-1(ワード)	1・2前後	2	○									兼2	
		情報処理A-2(ワード)	1・2前後	2	○									兼2	
		情報処理B-1(エクセル)	1・2前後	2	○									兼2	
		情報処理B-2(エクセル)	1・2前後	2	○									兼2	
		情報処理C(プレゼンテーション)	1・2前後	2	○									兼2	
		情報処理D(データベース)	1・2前後	2	○									兼1	
		応用英語1	2・3前	1	○									兼1	
		応用英語2	2・3後	1	○									兼1	
		世界の言語(中国語)1	1・2前	1	○									兼2	
		世界の言語(中国語)2	1・2後	1	○									兼2	
		世界の言語(中国語)3	2・3前	1	○									兼2	
		世界の言語(中国語)4	2・3後	1	○									兼2	
		世界の言語(フランス語)1	1・2前	1	○									兼1	
		世界の言語(フランス語)2	1・2後	1	○									兼1	
		世界の言語(フランス語)3	2・3前	1	○									兼1	
		世界の言語(フランス語)4	2・3後	1	○									兼1	
		世界の言語(ドイツ語)1	1・2前	1	○									兼2	
		世界の言語(ドイツ語)2	1・2後	1	○									兼2	
		世界の言語(ドイツ語)3	2・3前	1	○									兼2	
		世界の言語(ドイツ語)4	2・3後	1	○									兼2	
		世界の言語(韓国語)1	1・2前	1	○									兼1	
		世界の言語(韓国語)2	1・2後	1	○									兼1	
		世界の言語(韓国語)3	2・3前	1	○									兼1	
		世界の言語(韓国語)4	2・3後	1	○									兼1	
		世界の言語(スペイン語)1	1・2前	1	○									兼1	
		世界の言語(スペイン語)2	1・2後	1	○									兼1	
		世界の言語(スペイン語)3	2・3前	1	○									兼1	
		世界の言語(スペイン語)4	2・3後	1	○									兼1	
		世界の言語(ヒンディ語)1	1・2前	1	○									兼1	
		世界の言語(ヒンディ語)2	1・2後	1	○									兼1	
		世界の言語(ヒンディ語)3	2・3前	1	○									兼1	
		世界の言語(ヒンディ語)4	2・3後	1	○									兼1	
		英会話Ⅰ	1・2前	2	○										兼2
		英会話Ⅱ	1・2後	2	○										兼2
		英会話Ⅲ	2・3前	2	○										兼2
英会話Ⅳ	2・3後	2	○										兼2		
中国語会話Ⅰ	2・3前	2	○										兼1		
中国語会話Ⅱ	2・3後	2	○										兼1		
ドイツ語会話Ⅰ	2・3前	2	○										兼1		
ドイツ語会話Ⅱ	2・3後	2	○										兼1		
文章技法A	3前後	2	○										兼2		
文章技法B	3前後	2	○										兼1		
技法A(論理力)	3前後	2	○										兼1		
技法B(自己アピール)	3前後	2	○										兼1		
小計(44科目)	—	0	62	0	—		0	0	0	0	0	0	兼25		

第Ⅰ類科目	留学生科目	日本語研究A	1・2前後	2	○								兼2		
		日本語研究B	1・2前後	2	○								兼1		
		日本語研究C	1・2前後	2	○								兼1		
		日本語研究D	1・2前後	2	○								兼1		
		日本語研究E	1・2前後	2	○								兼1		
		日本語研究F	1・2前後	2	○								兼1		
		日本語研究G	1・2前後	2	○								兼1		
		日本語研究H	1・2前後	2	○								兼1		
		日本語研究I	1・2前後	2	○								兼1		
		日本文化研修	1・2前	2	○								兼1		
		小計(10科目)	—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼3
第Ⅱ類科目	基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1前	2		○			8		2				
		基礎ゼミナールⅡ	1後	2		○			8		2				
		基礎資料学	1前後	2		○				1	1			兼5	
		歴史学入門	1前	2		○			1						
		仏教と歴史	1後	2		○									
		地域の歴史	1前	2		○								兼1	
		環境と歴史	1後	2		○			1						
		世界の歴史遺産	1前後	2		○			1					兼1	
		民族と歴史	1後	2		○					1				
		人文地理学A	1・2前	2		○								兼1	
		歴史地理学	1・2・3前後	2		○								兼1	
		小計(11科目)	—	8	14	0	—			13	1	2	0	0	兼8
		第Ⅱ類科目	分野別基礎部門	日本史系	日本史概説	1・2前後	4		○			2			
日本文化史A	1・2後				2		○				1				
日本の歴史書□	1・2後				2		○								兼1
古記録講読A	1後				2		○					1			兼3
古記録講読B	2前				2		○								兼3
古文書講読A	2前				2		○			1					兼4
古文書講読B	2後				2		○			1					兼3
日本古代史基礎研究A	2前				2		○								兼1
日本古代史基礎研究B	2後			2		○								兼1	
日本中世史基礎研究A	2前			2		○			2		1				
日本中世史基礎研究B	2後			2		○			2		1				
日本近世史基礎研究A	2前			2		○			1		1				
日本近世史基礎研究B	2後			2		○			1		1				
日本近代史基礎研究A	2前後			2		○			2						
日本近代史基礎研究B	2前後			2		○			2						
小計(15科目)	—			0	32	0	—			5	1	2	0	0	兼7
東洋史系	東洋史概説	1・2前後	4		○				2						
	東洋文化史	1・2後	2		○				1						
	中国の歴史書	1・2前	2		○				1						
	東洋文献講読A	1後	2		○				2						
	東洋文献講読B	2前後	2		○				1	1					
	東洋史基礎研究A	2後	2		○				1						
	東洋史基礎研究B	2前	2		○				1						
	東洋史基礎研究C	2前	2		○					1					
	東洋史基礎研究D	2後	2		○					1					
小計(9科目)	—	0	20	0	—			2	2	0	0	0	0		

第Ⅱ類科目	教職関連部門	法律学概論（国際法を含む。）	2・3・4前		2		○							兼1	
		政治学概論（国際政治を含む。）	2・3・4後		2		○							兼1	
		社会学入門	2・3・4前		4		○							兼1	
		経済学概論（国際経済を含む。）	2・3・4後		2		○							兼1	
		哲学入門	2・3・4前		2		○							兼1	
		現代倫理学	2・3・4後		2		○							兼1	
		宗教学入門	2・3・4前		2		○							兼1	
		小計（7科目）	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼7
		卒業論文	4通	8				○		13	2				
		小計（1科目）	—	8	0	0	—			13	2	0	0	0	0
合計（200科目）			—	48	335	8	—		13	2	1	0	0	兼94	
学位又は称号		学士（日本文学）		学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
第Ⅰ類科目36単位、第Ⅱ類科目88単位、合計124単位以上修得すること。ただし、30単位までは、他学科から充当することができる。 （履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位）								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要																
(表現学部表現文化学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
第I類科目	文化	文化の探究A	1・2後	2		○									兼2	
		文化の探究B	1・2前	2		○									兼2	
		文化の探究C	1・2前	2		○									兼2	
		文化の探究D	1・2後	2		○									兼2	
		文化の探究E	1・2前	2		○									兼2	
		文化の探究F	1・2後	2		○									兼2	
		文化の探究G	1・2前	2		○									兼2	
		文化の探究H	1・2後	2		○									兼2	
		文化の探究I	1・2前	2		○									兼2	
	小計 (9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼15	
	学 び の 窓 口	社会	社会の探究A	1・2前	2		○									兼2
			社会の探究B	1・2後	2		○									兼2
			社会の探究C	1・2前	2		○			1		1				
			社会の探究D	1・2後	2		○									兼2
			社会の探究E	1・2後	2		○									兼2
			社会の探究F	1・2前	2		○									兼2
			社会の探究G	1・2後	2		○									兼2
			社会の探究H	1・2前	2		○									兼1
			社会の探究I	1・2前	2		○									兼1
	小計 (9科目)	—	0	18	0	—			1	0	1	0	0	0	兼12	
	自然	自然の探究A	1・2後	2		○									兼2	
		自然の探究B	1・2前	2		○									兼1	
		自然の探究C	1・2前後	2		○									兼2	
		自然の探究D	1・2前	2		○									兼1	
		自然の探究E	1・2後	2		○									兼1	
		自然の探究F	1・2後	2		○									兼1	
		自然の探究G	1・2前	2		○									兼1	
		自然の探究H	1・2前	2		○									兼1	
		自然の探究I	1・2後	2		○									兼1	
	小計 (9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	
	地域	地域連携貢献論A	1前後	2		○									兼1	
		小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
	学 び の 技 法	基礎科目	基礎技法A-1	1前	2		○			1						
			基礎技法A-2	1後	2		○			1						
			基礎技法A-3	2前	2		○			1						
			基礎技法A-4	2後	2		○			1						
基礎技法B-1			1前	2		○									兼2	
基礎技法B-2			1後	2		○									兼2	
基礎技法B-3			2前	2		○									兼2	
基礎技法B-4			2後	2		○									兼2	
基礎技法C			1前後	2		○									兼2	
英語1			1前	1		○				1					兼1	
英語2			1後	1		○				1					兼1	
英語3			2前	1		○				1					兼1	
英語4			2後	1		○				1					兼1	
基礎国語A			2・3前	2		○									兼2	
基礎国語B	2・3後	2		○									兼1			

第Ⅰ類科目	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1・2前後		2		○									兼1		
		基礎数学Ⅱ	1・2前後		2		○										兼1	
		基礎数学Ⅲ	2・3前後			2		○									兼1	
		基礎数学Ⅳ	2・3前後			2		○									兼1	
		基礎社会Ⅰ	1・2前後		2		○										兼1	
		基礎社会Ⅱ	1・2前後		2		○										兼1	
		基礎社会Ⅲ	2・3前後			2		○									兼1	
		基礎社会Ⅳ	2・3前後			2		○									兼1	
		小計 (23科目)	—	22	12	8	—			1	1	0	0	0				兼8
	展開科目	学びの技法	情報処理A-1 (ワード)	1・2前後		2		○										兼2
			情報処理A-2 (ワード)	1・2前後		2		○										兼2
			情報処理B-1 (エクセル)	1・2前後		2		○										兼2
			情報処理B-2 (エクセル)	1・2前後		2		○										兼2
			情報処理C (プレゼンテーション)	1・2前後		2		○										兼2
			情報処理D (データベース)	1・2前後		2		○										兼1
			応用英語1	2・3前		1		○										兼1
			応用英語2	2・3後		1		○										兼1
			世界の言語 (中国語) 1	1・2前		1		○										兼2
			世界の言語 (中国語) 2	1・2後		1		○										兼2
			世界の言語 (中国語) 3	2・3前		1		○										兼2
			世界の言語 (中国語) 4	2・3後		1		○										兼2
			世界の言語 (フランス語) 1	1・2前		1		○										兼1
			世界の言語 (フランス語) 2	1・2後		1		○										兼1
			世界の言語 (フランス語) 3	2・3前		1		○										兼1
			世界の言語 (フランス語) 4	2・3後		1		○										兼1
			世界の言語 (ドイツ語) 1	1・2前		1		○										兼2
			世界の言語 (ドイツ語) 2	1・2後		1		○										兼2
			世界の言語 (ドイツ語) 3	2・3前		1		○										兼2
			世界の言語 (ドイツ語) 4	2・3後		1		○										兼2
			世界の言語 (韓国語) 1	1・2前		1		○										兼1
			世界の言語 (韓国語) 2	1・2後		1		○										兼1
			世界の言語 (韓国語) 3	2・3前		1		○										兼1
			世界の言語 (韓国語) 4	2・3後		1		○										兼1
			世界の言語 (スペイン語) 1	1・2前		1		○										兼1
			世界の言語 (スペイン語) 2	1・2後		1		○										兼1
			世界の言語 (スペイン語) 3	2・3前		1		○										兼1
			世界の言語 (スペイン語) 4	2・3後		1		○										兼1
			世界の言語 (ヒンディ語) 1	1・2前		1		○										兼1
			世界の言語 (ヒンディ語) 2	1・2後		1		○										兼1
			世界の言語 (ヒンディ語) 3	2・3前		1		○										兼1
			世界の言語 (ヒンディ語) 4	2・3後		1		○										兼1
			英会話Ⅰ	1・2前		2		○						1				兼1
			英会話Ⅱ	1・2後		2		○						1				兼1
			英会話Ⅲ	2・3前		2		○						1				兼1
英会話Ⅳ	2・3後		2		○						1				兼1			
中国語会話Ⅰ	2・3前		2		○										兼1			
中国語会話Ⅱ	2・3後		2		○										兼1			
ドイツ語会話Ⅰ	2・3前		2		○										兼1			
ドイツ語会話Ⅱ	2・3後		2		○										兼1			
文章技法A	3前後		2		○										兼2			
文章技法B	3前後		2		○										兼1			
技法A (論理力)	3前後		2		○										兼1			
技法B (自己アピール)	3前後		2		○					1					兼1			
小計 (44科目)	—	0	62	0	—			0	1	0	1	0				兼22		

第Ⅰ類科目	留学生科目	日本語研究A	1・2前後		2		○								兼2	
		日本語研究B	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究C	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究D	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究E	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究F	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究G	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究H	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究I	1・2前後		2		○								兼1	
		日本文化研修	1・2前		2		○								兼1	
		小計 (10科目)	—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3
第Ⅱ類科目	基礎部門	表現文化概論	1・2前		2		○			1					兼1	
		英語表現論	1後		2		○			1	1					
		文芸表現論	1後		2		○						1		兼1	
		映像文化論	2・3前		2		○						1			
		メディア表現論	2・3前		2		○			2						
		表現プロデュース論	1後		2		○								兼1	
		小計 (6科目)	—	0	12	0	—			3	1	0	2	0	兼3	
第Ⅱ類科目	分野別部門	クリエイティブライティング研究A	1・2前後		2		○								兼1	
		クリエイティブライティング研究B	1・2・3前後		2		○								兼1	
		クリエイティブライティング研究C	1・2・3前		2		○								兼1	
		クリエイティブライティング研究D	1・2・3前		2		○								兼1	
		クリエイティブライティング研究E	1・2・3前後		2		○						1			
		リテラリーライティング研究A	2・3・4前後		2		○								兼1	
		リテラリーライティング研究B	3前後		2		○								兼1	
		リテラリーライティング研究C	2・3・4前		2		○								兼1	
		リテラリーライティング研究D	2・3・4後		2		○								兼1	
		リテラリーライティング研究E	2・3・4後		2		○								兼1	
		広告・企画表現A	2・3前		4		○								兼1	
		広告・企画表現B	2・3後		4		○								兼1	
		広告・企画表現C	2・3前		4		○								兼1	
		広告・企画表現D	2・3後		4		○								兼1	
		情報・メディア表現A	2・3前		4		○								兼1	
		情報・メディア表現B	2・3後		4		○								兼1	
		情報・メディア表現C	2・3前		4		○								兼1	
		情報・メディア表現D	2・3後		4		○								兼1	
		エディトリアルライティング研究A	2・3・4前		2		○			1					兼1	
		エディトリアルライティング研究B	2・3・4後		2		○								兼1	
		エディトリアルライティング研究C	2・3・4後		2		○			1						
		エディトリアルライティング研究D	2・3・4前		2		○								兼1	
		エディトリアルライティング研究E	2・3・4後		2		○								兼1	
		出版編集文化論A	2・3前		2		○			1						
		出版編集文化論B	2・3後		2		○			1						
		出版編集文化論C	2・3前		2		○			1						
		出版編集文化論D	2・3後		2		○			1						
		メディア表現研究A	2・3前		2		○									兼1
		メディア表現研究B	2・3後		2		○									兼1
		メディア表現研究C	2・3前		2		○									兼1
		映像文化研究A	1・2前		2		○					1				
		映像文化研究B	1・2・3後		2		○					1				
		映像文化研究C	2・3前後		2		○					1				
放送文化研究A	1・2・3前		2		○									兼1		
放送文化研究B	2・3後		2		○									兼1		
放送文化研究C	2・3前		2		○									兼1		
英語表現研究A	1前		2		○			1								
英語表現研究B	1後		2		○				1							
英語コミュニケーション論Ⅰ	1・2前		2		○						1					
英語コミュニケーション論Ⅱ	1・2後		2		○						1					
英語コミュニケーション論Ⅲ	2・3前		2		○									兼1		

第Ⅱ類科目	分野別部門	英語コミュニケーション論Ⅳ	2・3後	2	○							兼1	
		キャリア英語表現A	2・3前	2	○			1					
		キャリア英語表現B	2・3後	2	○		1						
		キャリア英語表現C	2・3前	2	○		1						
		キャリア英語表現D	2・3後	2	○				1				
		英語学概論A	2・3前	2	○		1						
		英語学概論B	2・3後	2	○		1						
		英米文学概論A	2・3前	2	○				1				
		英米文学概論B	2・3後	2	○				1				
		ウェブ表現研究A	1・2・3前	2	○								兼1
		ウェブ表現研究B	2・3後	2	○								兼1
		ウェブ表現研究C	2・3前	2	○								兼1
		ウェブ表現研究D	2・3後	2	○								兼1
		書道表現研究A	1・2前	2	○			1					
		書道表現研究B	1・2後	2	○								兼1
		書写技術研究A	2・3前	2	○								兼1
		書写技術研究B	2・3後	2	○								兼1
		書道史Ⅰ	2・3前	2	○								兼1
		書道史Ⅱ	2・3後	2	○								兼1
		セルフマーケティングⅠ	1前	2	○								兼1
		セルフマーケティングⅡ	1後	2	○								兼1
		セルフマーケティングⅢ	2前	2	○								兼1
		セルフマーケティングⅣ	2後	2	○								兼1
		セルフマーケティングⅤ	3前	2	○								兼1
		セルフマーケティングⅥ	3後	2	○								兼1
		ビジネス英語Ⅰ	1前	1	○								兼1
		ビジネス英語Ⅱ	1後	1	○								兼1
		ビジネス英語Ⅲ	2前	1	○								兼1
		ビジネス英語Ⅳ	2後	1	○								兼1
		ビジネス英語Ⅴ	3前	2	○								兼1
		ビジネス英語Ⅵ	3後	2	○								兼1
		経済学基礎	1・2後	2	○								兼1
		経営システム概論	1・2前	2	○								兼1
		財務・会計基礎	1・2後	2	○								兼1
		組織論	1・2前	2	○								兼1
		表現マネジメント研究A	2・3前	2	○								兼1
		表現マネジメント研究B	2・3後	2	○								兼1
		表現マネジメント研究C	2・3前	2	○								兼1
		表現マネジメント研究D	2・3後	2	○								兼1
		マーケティング基礎論A	1・2前	2	○								兼1
		マーケティング基礎論B	1・2後	2	○								兼1
		マーケティング論A	2・3前	2	○								兼1
		マーケティング論B	2・3後	2	○								兼1
		広報論A	2・3・4前	2	○								兼1
		広報論B	2・3・4後	2	○								兼1
		広告論A	2・3・4前	2	○								兼1
		広告論B	2・3・4後	2	○								兼1
著作権概論	2・3・4前	2	○								兼1		
知的財産論A	2・3・4集中	2	○								兼1		
知的財産論B	2・3・4後	2	○								兼1		
組織コンプライアンス論	2・3・4前	2	○								兼1		
ワークショップ(文芸)Ⅰ	1前	6	○		1	1		1					
ワークショップ(文芸)Ⅱ	1後	6	○		1	1		1			兼1		
ワークショップ(文芸)Ⅲ	2前	6	○				2				兼1		
ワークショップ(文芸)Ⅳ	2後	6	○				2		1				
ワークショップ(文芸)Ⅴ	3前	6	○		1	1							
ワークショップ(文芸)Ⅵ	3後	6	○		1	2			1				
ワークショップ(文芸)Ⅶ	4前	6	○						1		兼1		
ワークショップ(文芸)Ⅷ	4後	6	○						1		兼1		

第Ⅱ類科目	分野別部門	ワークショップ（編集）Ⅰ	1前	6		○		3					兼1	
		ワークショップ（編集）Ⅱ	1後	6		○		1					兼2	
		ワークショップ（編集）Ⅲ	2前	6		○		2					兼1	
		ワークショップ（編集）Ⅳ	2後	6		○		2						
		ワークショップ（編集）Ⅴ	3前	6		○		2					兼1	
		ワークショップ（編集）Ⅵ	3後	6		○		3					兼1	
		ワークショップ（編集）Ⅶ	4前	6		○		3						
		ワークショップ（編集）Ⅷ	4後	6		○		3						
		ワークショップ（放送・映像）Ⅰ	1前	6		○		1		1				
		ワークショップ（放送・映像）Ⅱ	1後	6		○		1		1				
		ワークショップ（放送・映像）Ⅲ	2前	6		○		1		1				兼3
		ワークショップ（放送・映像）Ⅳ	2後	6		○		1		1				兼3
		ワークショップ（放送・映像）Ⅴ	3前	6		○								兼2
		ワークショップ（放送・映像）Ⅵ	3後	6		○								兼2
		ワークショップ（放送・映像）Ⅶ	4前	6		○		1						兼2
		ワークショップ（放送・映像）Ⅷ	4後	6		○		1						兼2
		ワークショップ（英語）Ⅰ	1前	6		○		1			1			兼1
		ワークショップ（英語）Ⅱ	1後	6		○		1			1			兼1
		ワークショップ（英語）Ⅲ	2前	6		○		1			1			兼1
		ワークショップ（英語）Ⅳ	2後	6		○		1	1		1			兼1
		ワークショップ（英語）Ⅴ	3前	6		○		2	1		1			
		ワークショップ（英語）Ⅵ	3後	6		○		2	1		1			
		ワークショップ（英語）Ⅶ	4前	6		○		2	1					
		ワークショップ（英語）Ⅷ	4後	6		○		2	1					
		ワークショップ（ウェブ）Ⅰ	3前	6		○								兼2
		ワークショップ（ウェブ）Ⅱ	3後	6		○								兼2
		ワークショップ（ウェブ）Ⅲ	4前後	6		○					1			兼1
		ワークショップ（ウェブ）Ⅳ	4前後	6		○					1			兼1
		ワークショップ（書道）Ⅰ	1前	6		○		1						
		ワークショップ（書道）Ⅱ	1後	6		○		1						
		ワークショップ（書道）Ⅲ	2前	6		○		1						
		ワークショップ（書道）Ⅳ	2前後	6		○		1						
		ワークショップ（書道）Ⅴ	3後	6		○		1						
		ワークショップ（書道）Ⅵ	3前	6		○		1						
		ワークショップ（書道）Ⅶ	4前	6		○		1						
		ワークショップ（書道）Ⅷ	4後	6		○		1						
		基礎ゼミナール（エンビズ）Ⅰ	1前	2		○								兼1
		基礎ゼミナール（エンビズ）Ⅱ	1後	2		○								兼1
		基礎ゼミナール（エンビズ）Ⅲ	2前	2		○								兼1
		基礎ゼミナール（エンビズ）Ⅳ	2後	2		○								兼1
		専門ゼミナール（エンビズ）Ⅰ	3後	2		○								兼1
		専門ゼミナール（エンビズ）Ⅱ	3前	2		○								兼1
		専門ゼミナール（エンビズ）Ⅲ	4前	6		○								兼1
		専門ゼミナール（エンビズ）Ⅳ	4後	6		○								兼1
		小計（144科目）	—	0	484	0	—		9	3	1	2	0	兼41
		共通部門	業界研究A	2・3・4前	2		○							兼1
			業界研究B	2・3・4後	2		○							兼1
業界研究C	2・3・4前		2		○							兼1		
業界研究D	2・3・4後		2		○							兼1		
業界研究E	2・3・4前		2		○							兼1		
業界研究F	2・3・4後		2		○							兼1		
インターンシップ（表現）A	2・3・4前		2				○	1						
インターンシップ（表現）B	2・3・4後		2				○	1						
インターンシップ（表現）C	2・3・4前		2				○	1						
インターンシップ（表現）D	2・3・4後		2				○	1						
小計（10科目）	—	0	20	0	—		2	0	0	0	0	兼4		

第Ⅱ類科目	教職関連部門	アメリカ文学史	2・3・4前		2		○			1								
		イギリス文学史	2・3・4後		2		○			1								
		書道Ⅰ	2・3・4前		2		○										兼1	
		書道Ⅱ	2・3・4後		2		○											兼1
		書道Ⅲ	2・3・4後		2		○			1								
		書道文化研究A	2・3・4前		2		○											兼1
		書道文化研究B	2・3・4後		2		○											兼1
		書道文化研究C	2・3・4前		2		○											兼1
		書道文化研究D	2・3・4後		2		○											兼1
		書道文化研究E	2・3・4前		2		○											兼1
		日本文学基礎論	2・3・4前		2		○											兼1
		日本漢文学	2・3・4後		2		○											兼1
		小計（12科目）		—	0	24	0		—		2	0	0	0	0	0	0	兼5
合計（277科目）		—	24	688	8		—		9	3	1	2	0	0	0	兼100		
学位又は称号		学士（表現文化）			学位又は学科の分野			文学関係										
卒業要件及び履修方法								授業期間等										
第Ⅰ類科目36単位、第Ⅱ類科目88単位、合計124単位以上修得すること。ただし、30単位までは他学科から充当することができる。 （履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位）								1 学年の学期区分			2学期							
								1 学期の授業期間			15週							
								1 時限の授業時間			90分							

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要					
（文学部日本文学科）					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
第 I 類 科 目	学 び の 窓 口	文 化	文化の探究 A	講義形式で教員が講義する。受講者に事例を考えてもらいながら、その事例を検討する。必要に応じて映像を鑑賞する。「論理的・批判的に考える力を養うことができる。」「『論理学』的思考の初歩を理解できるようになる。」を到達目標とする。論理的に考えるとはどういうことであろうか。論理的に考えることは学問をする上でもっとも基本的なことである。多くの人は、「考えている」つもりでも、実はただ「悩んでいる」だけのことが多い。本授業では、論理的・批判的に考える方法について学ぶ。	
			文化の探究 B	講義形式と演習形式で行う。「講義で取り上げた生命倫理のテーマについて、その概要と何が争点となっているのかを説明し、自己の視点を述べるができる。」「個人発表において、受講生の興味に応じて発表テーマを選択し、それについて調査し、レジュメを作成して、発表することができる。」「個人発表において、他の人の発表に耳を傾け、適切なコメントを述べるができる。」を到達目標として、生命倫理が扱う諸問題について共に学ぶ。	
			文化の探究 C	講義形式で行う。「ヨーロッパの中でのポーランドの位置を民族的・宗教的に認識できる。」「ポーランドとその周囲の民族との歴史的關係を認識できる。」「近世における身分制社会の特徴を理解できる。」「近代におけるポーランドのロマン主義と亡命社会の特徴を認識できる。」「現代におけるホロコーストがポーランドに及ぼした影響を認識できる。」などを到達目標として、ヨーロッパの東西の要に位置するポーランドの歴史を題材にして、それに関わった幾人かの人物を考察の中心に据える。	
			文化の探究 D	講義・グループワークによる成果発表を行う。「日本の歴史をアジア史の中で位置付けることができる。」「アジアの中における日本の位置が正しく理解できる。」「グループワークにより歴史を説明することができる。」を到達目標として、アジア史なかでも中国との関係から日本の歴史とその果たしてきた役割について確認したい。現代社会におけるアジア（中国・インド）の台頭にあつて、わが国が担う立場を考える。	
			文化の探究 E	講義形式で、主に教員が講義する。演習形式で、学生に順次発表・回答させる。「和歌表現の豊かさ、和歌の表現技巧、和歌作品の社会的背景などを理解することで、和歌文学に親しみと興味を持つことができる。」「奈良・平安・鎌倉期の主要な和歌を学ぶことで、古典の常識や教養を広げる。」「古文の読解に必要な、各種辞典・事典を活用できる。」を到達目標として、現代人でも深く共感できる奈良・平安・鎌倉期の和歌を取り上げ、基本事項をマスターしながら一首一首味読する。	
			文化の探究 F	基本的には講義形式、適宜、学生からの意見参加、発表を求める。「日本語・日本文学の幅広い学習から、日本の言語、文化の特徴を理解している。」「豊かな表現、分かりやすい表現を用いて、相手に説明することができる。」「ものの見方・考え方に対し、様々な角度からアプローチできる柔軟な姿勢をもっている。」を到達目標として、日本の文化としての近代文学を学ぶとともに、一部を音読することで、日本語の豊かな表現を味わう。	
			文化の探究 G	講義形式で、主に教員が講義する。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。「現代社会と仏教について小論文を作成する。」「そのためのテーマ選択と諸見解が理解できる。」「見解を整理し、論文の形式に沿って文章が書ける。」を到達目標として、現代人の意識・宗教観を検討する。次に現代社会の課題と仏教・宗教の関わりを考え、それらを踏まえたうえで、各自が現代社会と仏教に関する小論文を作成する。	
			文化の探究 H	講義形式で、主に教員が講義する。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。「授業での検討事項を踏まえたうえで、受講生は、プレゼンテーションを行う。」「現代社会と仏教に関わる書籍を一冊選定し、その概要を把握する。」「著者の主張をまとめ、その主張に対する自分の論評を加え、レジュメを作成し発表する。」を到達目標とする。本科目では、葬儀にまつわる多くの課題や多様な見解をとり上げながら、受講生は一つのテーマについて意見をまとめ、発表を行う。	
			文化の探究 I	主に講義形式で行い、文化の多様性を知り、文化人類学の基礎を学ぶ。「自分（たち）にとって当たり前であることが、他人にとって当たり前ではない」ということを知った経験はあるだろうか。戦前の植民地時代、世界中を支配した西欧諸国の人々は、世界の至る所でこのような経験をした。文化人類学はこの「なぜ違うのか」という問いからスタートしたともいえる学問である。講義ではいくつかのテーマを設定し、実際の例に触れながら、先人たちがそれをどのように考えてきたのかを説明していく。	

第 I 類科目	学びの窓口	社会	社会の探究 A	毎回テーマに基づく講義を行い、受講者には授業時間内に適宜ミニ・レポートを提出することを求める。「人が生まれることへの自分の考えを深める。」「人として育っていくプロセスを知る。」「発達的な視点で人間を理解することができる。」を到達目標として、「人はどのように人となるのか？」を乳幼児期の発達の視点から人間への理解を深める。	
			社会の探究 B	この授業では講義、グループ発表を行う。「片親疎外や面会交流について説明できる。」を到達目標として、離婚後の子育ての問題について学ぶ。全15回の授業においては、レポート課題や発表準備、グループ討議を多く経験することによって、片親疎外、面会交流、ステップファミリーなど、現代の家族が抱える離婚後の子育ての問題を理解する。	
			社会の探究 C	ケーススタディを織り込みながら理解を深め、実社会で役に立つ指導を行う。新聞、放送、インターネット系など多メディア、クロスメディア時代のエンターテインメントビジネスに関する基礎的表現法を修得する。アカデミックライティングとビジネスライティング、作法の違いなどからエンターテインメントビジネスへの理解を深める。	
			社会の探究 D	この授業では、学生に順次発表・回答させる。「情報の伝達・利用される仕組みを学び、必要・不必要に応じた取捨選択・目的に応じて使いこなす能力を高める。ひいては、コンピュータと情報のあり方、関わり方について考える。」を到達目標として、身の回りのさまざまな情報がどのように作られ、伝えられるのか。また、それがどのように利用されるのかを学ぶ。	
			社会の探究 E	教員の講義と学生のグループワークによって構成され、コメントシートや発表など、意見を表明することを求める。「スピリチュアリティとは何かを説明できるようになる。」「スピリチュアリティをめぐる文化の可能性と限界を説明できるようになる。」を到達目標とする。スピリチュアリティに対する関心が高まっているが、こうした「ブーム」をめぐる情報をどう収集・整理するかを学びつつ、なぜこうしたブームが起きるのか、スピリチュアリティという視点を獲得すると、当事者にとって世界はどう見えるのかを確認していきたい。	
			社会の探究 F	教員の講義と学生のグループワークによって構成され、コメントシートや発表など、意見を表明することを求める。「スピリチュアリティをめぐる文化にどのような分野があるかを説明できるようになる。」「各文化でのスピリチュアリティの可能性と限界を説明できるようになる。」を到達目標とする。本講義では、スピリチュアリティが宗教を離れて、世俗の分野でも注目を集めていることを確認し、そこから時代的・社会的背景を読み解くことを目指す。具体的には授業計画にある5本の映画を見て、そこに現れた死生観を読み解くことになる。	
			社会の探究 G	主に講義形式で行う。法の基礎知識および民法の概要を学ぶ。「法令の条文や判例、文献等の精読と理解が的確にできる」「論理的な文章を正確に読解し、その概要を自分の言葉で表現できる」「契約や物の所有などに関する現行法のルールを理解できる」などを到達目標として、現行の法制度のうち、市民生活の基本法である民法を中心に、所有権や契約などの仕組みについて学ぶ。生活に密着した具体的な事例を多く取り上げ、法制度を身近に感じてもらえるようにしたい。	
			社会の探究 H	主に講義形式で行う。「日常の生活の中で出会う物事の背後にある法的なルールや考え方を理解する」「日常の生活の中で出会う事柄について法的な解決を視野に入れた行動ができるようになる」ことを到達目標とし、社会における法の役割、社会のルールの背後にある法的な考え方を概観した後、憲法、民法、刑法などの基礎的な法律のエッセンスを学ぶ。その上で、日常生活で直面する労働、消費者、医療・福祉、情報、国際関係等の諸問題に関わる法や問題解決の仕組み等について概観する。	
			社会の探究 I	講義形式で、主に教員が講義する。現実の経済問題を理解するのに役立つ経済学のエッセンスについて学ぶ。経済問題は国民一人ひとりの暮らしに直結するものでありながら、それを正しく理解するツールである経済学の方法をきちんと身につけている人は意外に少ない。まず現実経済の具体的な事例に即し、その正確な理解を主眼として、マクロ・ミクロの経済理論と近年重要性を増しているゲーム理論について、その基本を学ぶ。さらに、財政、金融、企業・産業、労働、国際経済など、経済理論の幅広い応用分野についても概説する。	

第1類科目	学びの窓口	自然	自然の探究 A	講義形式、双方向型授業を重視する。「数学の知識の実生活における実用性について理解できている。」「単なる実用性にとどまらない、数学の文化としての重要性が理解できている。」「身のまわりの諸事象の中に、数学の知識がどのように生かされているかを知ろうとする態度を身につけている。」を到達目標とする。数学の知識が実際の生活に実用的であるというだけでなく、音楽や文学、その他多くの芸術のように、人間の生活を豊かにする文化としての重要性が理解できることをねらって、数学のもつ魅力をさまざまな側面から考察する。	
			自然の探究 B	講義形式、双方向型授業を重視する。「数学が実用的な必要性から生まれてきたことが理解できている。」「古代ギリシャにおいて、論証数学（証明付きの数学）が形成された事情について説明することができる。」「数学がいかに広範な文化的背景をもって発展してゆく知的営為であるかが理解できている。」を到達目標とする。数学的知恵の足跡をたどることを通して、場所と時代は異なっても、どこか似ていて、しかもそれぞれに違う数学的文化を感じることを目標とする。	
			自然の探究 C	講義形式の講義とスポーツ実習を組み合わせる。「現代社会におけるスポーツの功罪を正しく説明できる。」「健康に関する基礎的、科学的な知識を身につける。」を到達目標として、スポーツを取り巻く社会的な問題を取り上げ、スポーツの置かれている現状について考えていく。また健康に関連してしばしば誤った情報が伝えられている。健康的な生活の実践のために正しい知識を獲得することを目指す。その上で、エクササイズやスポーツ実技を実習し、実際の運動でどのように生かすことができるかを学ぶ。	
			自然の探究 D	主に講義形式で行う。水源確保、土砂災害、水害防止など森林がかかわる諸問題に取り組むための基礎として、森林の持つ多様な機能について学習する。本講義における大きな目標は心理について幅広い知識を持つこと、森林の機能についての導入的な知識を得ることにある。そして、「心理の果たす役割について理解を深め、森林がなぜ重要とされるについての理解を高める」ことを到達目標とする。授業内容としては、森林科学が持つ各分野に関して、入門的な内容を扱っていく。	
			自然の探究 E	主に講義形式で行う。環境史を紐解けば、古代の人類も環境問題を引き起こし、それが文明の盛衰を左右してきたことが分かる。この授業では農耕と定住の始まりから都市の形成、近代科学の誕生や産業革命を経て現代に至るまでの歴史に人類と環境の関係がどのような影響を及ぼしてきたかということ、および人類の環境に対する考え方の変遷について概観する。その過程で「環境問題がどのような原因で生じるのかが分かる」「現代の環境問題にどのように対処すればよいのかについて考えを深めることができる」を到達目標とする。	
			自然の探究 F	講義形式で行う。「古代から現代に至る科学の歴史的展開について、その概要を説明することができる。」「科学の歴史的発展に「思想」や「宗教」などがいかに関係しているか、いくつかの事例について理解できている。」「科学と技術に関して、今後思索する際の知的道具を身につけている。」を到達目標として、古代から現代に至る科学の歴史的展開を、「方法」や「思想」、「宗教との関係」にも眼を向けつつ総合的に学ぶ。	
			自然の探究 G	主に講義形式で行う。地球上には様々な微生物が生息しており、人間の生活に深く関わっているものも多い。それらは発酵食品や環境浄化など人間にとって有益な作用をもたらすものから、感染症を引き起こす病原菌など有害なものまで多種多様である。本講義では、普段生活している中で馴染みのあるものを中心に、微生物の構造や機能、その利用法などを紹介していく。微生物が身近な存在であるということを知ることによって、自然界における微生物の存在と重要性、さらに人間との関わりについて関心をもつことを目標とする。	
			自然の探究 H	主にスライドを使用した講義形式で行う。「地球を取り巻く宇宙環境」をテーマに、宇宙という視点から見た地球の特徴や、オーロラなど周囲の宇宙環境が地球にもたらす様々な現象、また地球の兄弟である太陽系の惑星たちとの共通点・相違点について理解することを目標とする。地球や惑星、周囲の宇宙環境に関する基礎知識や、それらに起こる自然現象・天体現象について原理から学んでいく。また講師が参画している惑星探査プロジェクトなどに焦点を当て、宇宙科学に関連するプロジェクトの最前線についても紹介していく。	
			自然の探究 I	主に映像を使用した講義形式で行う。人間科学、脳科学、生命科学、宇宙開発、環境、福祉教育などの各分野について、NHKスペシャルの映像などを活用しながら自然科学の幅広い知識を身につける。身近にある内容を取り上げ、人間とはどのような生物か、環境問題・エネルギー問題とは何か、テクノロジーで世界をどう変えるかなど各回テーマを変えて、講義を行う。まずは関心を持ってもらうことを中心にしながら、広く自然科学を学ぶための基礎知識を学ぶ。	
		地域	地域連携貢献論 A	主に講義行い、ディスカッションも取り入れる。地域経済が真に活性化するためには、各地域が新たな視点や発想をもって個性豊かな地域の資源を掘り起こし、多様な知恵と創意工夫により自ら活性化を実現していくことである。しかしながら世の中の地域活性化に対する知見は少なく、地域にイノベーションを興す人材もいないのが現状である。この講義では山積する地域の課題や活性化の取組事例を研究し、地域活性化の手法を学び、地域活性化をプロデュースするための基礎的な知識を身につける。	

第 I 類科目	学びの技法	基礎科目	基礎技法 A-1	講義とグループワークによる演習形式で、発表なども行う。「大学生になる～自律と自立～」をテーマとし、グループワークを通して、大学生活を送るうえで前提となる知識やマナーを身につけ、セルフマネジメントによって4年間の大学生活を充実したものとする為の基礎を確立し、大学生としての一歩を踏み出す。「学びを通して、目標達成のためのプランを立てることができる」ことを到達目標とする。	
			基礎技法 A-2	講義とグループワークによる演習形式で、発表なども行う。「多様性のある社会を知る」ことをテーマとし、グループワークを中心として、4年後に出ることになる多様な「社会」に対する認識を深める。また、自己アピール力や働くことの意味を考えることによって、自らのライフプランを考え、セルフマネジメント力を身につける。「社会の多様性を理解し、社会と自分のつながりを考える、自分の言葉で述べるができる」ことを到達目標とする。	
			基礎技法 A-3	講義とグループワークによる演習形式で、発表なども行う。「自分の価値を高める」ことをテーマとし、主としてグループワークを行い、自らの価値を高める為に、新聞の読み方、政治経済時事、国際理解や就職活動に関する予備知識、電話のかけ方や手紙の書き方などの大人のマナーを身につける。また、企業研究などを通して、一歩進んだ就労観を身につける。「新聞の読み方を通じて、政治経済時事や国際社会を理解し、やるべきことを自分自身で決め、ひとつでも実行に移すことができる」ことを到達目標とする。	
			基礎技法 A-4	講義とグループワークによる演習形式で、発表なども行う。「自らを社会に位置づける」ことをテーマとし、自らを社会に位置づけ、社会（企業）の求めを敏感に察知する能力を養う為に、経済（ファイナンス）・金銭関係（税金、奨学金）の知識や政治への関心を育み、映画を通して社会背景を読み解く力を涵養し、それに応じた生活力や労務知識、エンプロイアビリティを構想、意識する。また、グループワークを通してセールススキルも養う。	
			基礎技法 B-1	講義と演習を交互に行い、課題の添削を通して、日本語文章能力の向上を計る。「正しい日本語を使うことができる」「論理的文章について理解する」ことを到達目標とし、日本語表現の基礎知識・基本技能として、①事実の整理（要約：事実と自分の意見の区別）、②情報収集の諸注意、③小論文作成の段取りについて、文法的に正しい書き言葉で、論理的な構成を備えた文章を作成するため、最低限必要となる技能を学ぶ。	
			基礎技法 B-2	講義と演習を交互に行い、課題の添削を通して、日本語文章能力の向上を計る。「自分の意見を文章で表現することができる」「さまざまな文章に触れて内容紹介することができる」ことを到達目標とし、日本語表現の基礎知識・基本技能として、①文章読解、②読解文の内容紹介、③テーマ型小論文について、ある分野の新聞記事、新書の一章、論説文、評論などを読み、内容紹介のうえで賛否を述べるができる技能を学ぶ。	
			基礎技法 B-3	講義と演習を交互に行い、課題の添削を通して、日本語文章能力の向上を計る。「テーマをみつけて問題提起することができる」「論理的文章を書くことができる」ことを到達目標とし、日本語表現の基礎知識・基本技能として、①文章読解、②比較型小論文について、B-2で読んだ文章にもとづき、さらに関連文献を調査したうえで、同じテーマに関して異なる視点から書かれた文章を比較する小論文を作成する。複数の観点を比較してまとめる表現技能を学ぶ。	
			基礎技法 B-4	講義と演習を交互に行い、課題の添削を通して、日本語文章能力の向上を計る。「新書を読んでまとめることができる」「論理的文章を書くことができる」ことを到達目標とし、日本語表現の基礎知識・基本技能として、①文章読解、②発見／調査型小論文について、与えられた文献の中から、みずから小論文のテーマを発見する方法を学ぶ。新書をはじめとする文献の調査、読解、要約、マッピングなどこれまでに学んだことを総合し、小論文を作成する技能を学ぶ。	
			基礎技法 C	講義形式で教員が講義した上で、学生が実際に操作・演習を行う。情報化社会を迎えた現代においては、コンピュータはほとんどの人にとって必要不可欠なものとなっている。そのような中でわれわれは必然的にコンピュータを使っていなければならないし、有効に利用することができれば非常に便利な道具となり得る。Windows の基本操作を学び、コンピュータと長く付き合っていく上で必要なことを身につけ、コンピュータの基礎知識と基本操作を学ぶ。	

第 I 類科目	学びの技法	基礎科目	英語 1	講義形式で、主に教員が講義する。演習形式で、学生に順次発表・回答させる。「英語のパラグラフ構成を理解し、英語の論理構成を学ぶ」「トピックセンテンスを探して、各パラグラフのメインアイデアを捉える力を養う」「英文の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う」を到達目標として、時事問題、文化、科学などの身近なトピックの英文を読み、現代社会が直面している問題を知る。読むスピードを高め、語彙を増やし、行間を読む力・要約の力をつける。	
			英語 2	講義形式で、主に教員が講義する。演習形式で、学生に順次発表・回答させる。英語 1 における学習内容を基礎として展開する。「英語のパラグラフ構成を理解し、英語の論理構成を学ぶ」「トピックセンテンスを探して、各パラグラフのメインアイデアを捉える力を養う」「英文の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う」を到達目標として、時事問題、文化、科学などの身近なトピックの英文を読み、現代社会が直面している問題を知る。読むスピードを高め、語彙を増やし、行間を読む力・要約の力をつける。	
			英語 3	講義形式で、主に教員が講義する。演習形式で、学生に順次発表・回答させる。「スキヤニング力（本文にすばやく目を通して全体を把握する力）を養う」「スキミング力（文章の概要を押さえながら読む力）を養う」「翻訳力（読んだ内容を正確な日本語に訳す力）を養う」を到達目標として、芸術、環境問題等、世界的な視野で捉えた英文を読み、理解し、翻訳する。豊富な確認問題で確認を深め、読みのテクニックを身につける。	
			英語 4	講義形式で、主に教員が講義する。「スキヤニング力（本文にすばやく目を通して全体を把握する力）を養う」「スキミング力（文章の概要を押さえながら読む力）を養う」「翻訳力（読んだ内容を正確な日本語に訳す力）を養う」を到達目標として、芸術、環境問題等、世界的な視野で捉えた英文を読み、理解し、翻訳する。豊富な確認問題で確認を深め、読みのテクニックを身につける。	
			基礎国語 A	講義と演習を織り交ぜ、学生に順次発表・回答させる双方向型授業とする。大学で日本古典文学や古文で書かれた史料を読んでいく際に必要となる基礎知識を学ぶ。テキストには、名作・名場面・秀歌等を使用し、基礎的知識（語彙・語法・古典常識）を無理なく段階的に学んでいく。古文が苦手であっても、基礎力を高めるために、練習問題を繰り返し行うので実力がつく。また、古語辞典をはじめとして、各種辞典・事典の基本的な活用法も学ぶ。	
			基礎国語 B	講義と演習を織り交ぜ、学生に順次発表・回答させる双方向型授業とする。現代日本語の文章の読解法を学び、文章表現方法を身につけるために、①文章を能動的に読む。②語彙力を増やすために、積極的に辞書を活用し、文章を書く。③漢字や語彙の問題演習などを通じて文章表現力を高める。以上の三点を重視して行う。	
			基礎数学 I	講義と演習を交互に行う。算数・数学における各領域「数と計算・量と測定・図形・数量関係・資料の活用・データの分析」を総合的に確認し、基礎的・基本的な知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力等の基礎力の土台を強固なものにするとともに実践で役に立つ知識を習得する。基礎数学 I では、初歩的な計算の工夫を通して、計算視力を養い状況判断力や判断力を身につけていく。また、日常生活で使われている比率や割合の計算をイメージできるようにし、さらには身近な金銭問題を取り上げ、金銭感覚を養う。	
			基礎数学 II	講義と演習を交互に行う。算数・数学における各領域「数と計算・量と測定・図形・数量関係・資料の活用・データの分析」を総合的に確認し、基礎的・基本的な知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力等の基礎力の土台を強固なものにするとともに実践で役に立つ知識を習得する。基礎的な数的推理・判断推理や命題・論証などを通して論理的な思考力を再構築していく。社会のあらゆる場面で出てくる図や表の読み取りなどができるようにする。さらに集合や場合の数・確率などの演習を通して、予知・予測などを考えるきっかけとする。	
			基礎数学 III	講義と演習を交互に行う。算数・数学における各領域「数と計算・量と測定・図形・数量関係・資料の活用・データの分析」を総合的に確認し、基礎的・基本的な知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力等の基礎力の土台を強固なものにするとともに実践で役に立つ知識を習得する。基礎数学 III では、I で身につけてきた基本的な事項を土台として、同じ項目内容でより応用的・実践的問題に取り組んでいく。	
			基礎数学 IV	講義と演習を交互に行う。算数・数学における各領域「数と計算・量と測定・図形・数量関係・資料の活用・データの分析」を総合的に確認し、基礎的・基本的な知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力等の基礎力の土台を強固なものにするとともに実践で役に立つ知識を習得する。基礎数学 IV では、II で身につけてきた基本的な事項を土台として、同じ項目内容でより応用的・実践的問題に取り組んでいく。	

第Ⅰ類科目	基礎科目	基礎社会Ⅰ	日本政治や国際政治に関する基本的な知識を身につけ、政治に関する社会事象を認識できる力を養う。授業は、大きく三つの柱から構成される。第一は、講師による問題提示と解説である。受講生は、ここで基本的な知識を身につける。第二は、関連する新聞記事や文献を読み、学習内容を深めることである。第三は、学習に関わる主要な論点を取り上げ、受講生の意見交換を行うことである。これらの学習プロセスを通して、政治に関する基本的な理解と考察を深めていく予定である。必要に応じて写真や映像を取り入れることもある。		
		基礎社会Ⅱ	日本経済や国際経済に関する基本的な知識を身につけ、経済に関する社会事象を認識できる力を養う。授業は、大きく三つの柱から構成される。第一は、講師による問題提示と解説である。受講生は、ここで基本的な知識を身につける。第二は、関連する新聞記事や文献を読み、学習内容を深めることである。第三は、学習に関わる主要な論点を取り上げ、受講生の意見交換を行うことである。これらの学習プロセスを通して、経済に関する基本的な理解と考察を深めていく予定である。必要に応じて写真や映像を取り入れることもある。		
		基礎社会Ⅲ	毎時間、新聞の時事ワークシートをもとに、演習と講師による解説を行う。Ⅲでは、おもに政治や経済に関する時事ニュースを取り上げる。演習や解説を通してニュースの背景や知識を理解するとともに、社会への関心を広げていく。時間があれば、他紙との比較やニュース記事の分析をするほか、テレビニュースなどを視聴する機会を設けたい。受講生には、新聞記事に対して意見を述べ、話し合うなどの学習機会を設けたい。		
		基礎社会Ⅳ	毎時間、新聞の時事ワークシートをもとに、演習と講師による解説を行う。Ⅳでは、政治・経済だけでなく、さまざまなジャンルのニュースを取り上げ、社会事象について広く理解できるように取り組んでみたい。演習や解説を通してニュースの背景や知識を理解するとともに、社会への関心を広げていく。多読や精読など、多様な学習の機会を設けるとともに、時事用語に関わる語彙力のチェックなどにも積極的に取り組むたい。		
	展開科目	情報処理A-1 (ワード)	講義形式で主に教員が講義する。演習形式で、学生が実際に操作する。テーマは「PCによる文書作成の基礎」。「ワープロソフトの基本機能と操作方法を身につけている。」を到達目標として、パソコンを使って、レポート・論文等を作成するために必要な知識、技術を学ぶ。授業では、文書の作成、表の作成、図形の活用、長文作成時の便利な機能等を学び、演習問題や習熟度チェックを通じてスキルの向上を目指す。		
		情報処理A-2 (ワード)	講義および演習で行う。「Microsoft Wordの上級クラスとして、様々な書式や図形を有効に使った応用的な文書の作成ができる。」を到達目標とする。アウトラインやスタイルなどの長文作成支援、コメントの挿入や変更履歴などの校閲機能、差し込み印刷などの実務的な機能を身につける。図形や図表を使った文書の作成、写真を使った文書の作成、差し込み印刷、長文の作成、文書の校閲と配布準備等を学び、習熟度チェックを通じてスキルの向上を目指す。		
		情報処理B-1 (エクセル)	講義形式で主に教員が講義する。演習形式で学生が実際に操作する。「表計算ソフトの基本機能と操作方法を身につけている。」を到達目標とする。表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本的な仕組みと特徴(計算・グラフ・データベース等)を紹介しながら、情報の整理・加工方法などの基本的な操作方法を学ぶ。データの入力、表の作成、数式の入力、表の印刷、複数シートの操作、グラフの作成、関数の利用等を学び、習熟度チェックを通じてスキルの向上を目指す。		
		情報処理B-2 (エクセル)	講義形式で主に教員が講義する。演習形式で学生が実際に操作する。「実践的な表計算ソフトの使用法を身につけている。また、自分が使うだけでなく、人に使ってもらえる意識を持っている。」を到達目標として、表計算ソフト(Microsoft Excel)を用いて、さまざまなデータ処理方法を学ぶ。データの入力、さまざまな関数の利用、テンプレートの作成、グラフィックの活用、ピボットテーブル、複数ブックの操作等を学び、習熟度チェックを通じてスキルの向上を目指す。		
		情報処理C (プレゼンテーション)	講義形式で、主に教員が講義する。演習形式で、学生に順次発表・回答させる。「プレゼンテーションのための有効な資料作成方法を身につけている。」を到達目標とする。第三者に対して何かを説明し理解を深めてもらうという場合、口頭だけの説明ではなかなか理解は得られないものである。この授業ではMicrosoft PowerPointを使って、説得力のある視覚に訴えるプレゼンテーションの作成方法を学ぶ。		
		情報処理D (データベース)	講義形式で主に教員が講義する。演習形式で学生が実際に操作する。「リレーショナルデータベースの基本的な考え方を理解し、データの抽出、加工、集計法を身につけている。」を到達目標とする。私たちは膨大な情報量の中で生活している。多種多様な情報の中から自分に必要な情報を選んでいるが、頭の中で処理するのは限界がある。この授業ではリレーショナルデータベースを用いて、データの入れ物の作り方から、効率的なデータ抽出、加工、集計等を行う。		

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	応用英語 1	学生に順次発表・回答させる。テーマは「TOEICで英語運用能力を高める」。「語彙力やリスニング力、文法力、読解力を伸ばしTOEICのスコアアップをはかる。」「テーマごとに頻出の関連語彙、イディオムなどを問題練習などを通して確実に習得できる。」を到達目標とする。2回の授業で1ユニットを学習する。リスニングとリーディングの全パートを学ぶ。学生に対しては、授業への積極的参加、発言を望む。	
			応用英語 2	学生に順次発表・回答させる。テーマは「TOEICで英語運用能力を高める」。「語彙力やリスニング力、文法力、読解力を伸ばしTOEICのスコアアップをはかる。」「テーマごとに頻出の関連語彙、イディオムなどを問題練習などを通して確実に習得できる。」を到達目標とする。2回の授業で1ユニットを学習する。リスニングとリーディングの全パートを学ぶ。学生に対しては、授業への積極的参加、発言を望む。	
			世界の言語（中国語） 1	学生に順次発表・回答させる。「中国語で日常の簡単な会話ができる。」を到達目標として、中国語の初学者を対象に、「読む、聞く、話す、書く」という語学の四技能をバランスよく学ぶ。春学期は発音の習得を第一の目標に掲げ、繰り返しの発音練習や聞き取りなどにより、正確な発音を学び、それを定着させる。また現在中国で使用されている漢字（簡体字）やその発音を表記するローマ字（ピンイン）も重要な学習項目である。春学期は簡単な挨拶などができることを目標とするが、それには中国人の風習や習慣を知ることが大切である。	
			世界の言語（中国語） 2	学生に順次発表・回答させる。「中国語の様々な言い回しを学ぶことにより異文化を知ることができる。」を到達目標として、中国語の初学者を対象に、「読む、聞く、話す、書く」という語学の四技能をバランスよく学ぶ。春学期に習得した発音を定着させるため、繰り返しの発音練習や聞き取りなどを行う。基礎的な文型を理解することが重要な学習項目となるが、そのためには日本語と中国語の発想の違いなどに気づくことが大切である。それはまた翻って日本の文化を見直すことにもなる。	
			世界の言語（中国語） 3	学生に順次発表・回答させる。「中国語の基礎的な知識と能力をバランスよく養うことができる。」を到達目標として、中国語の基礎を学んだ者を対象に、「読む、聞く、話す、書く」という語学の四技能をバランスよく学ぶ。正確な発音の定着のためには、繰り返しの発音練習や聞き取りなどが必要である。春学期はこれまでに学んだ基礎的な知識をより確かなものにしていくことが重要である。そのためには引き続き日本語と中国語の発想の違いなどに留意していくことが大切である。	
			世界の言語（中国語） 4	学生に順次発表・回答させる。「中国語の基礎的知識に基づき、簡単な会話ができ、簡単な文章が読めるようになる。」を到達目標として、中国語の基礎を学んだ者を対象に、「読む、聞く、話す、書く」という語学の四技能をバランスよく学ぶ。正確な発音の定着のためには、繰り返しの発音練習や聞き取りなどが必要である。秋学期はこれまでに学んだ基礎的な知識をより確かなものにしていくと同時に、更に実践的な運用を目指す準備期間でもある。これまでと同様、日本語と中国語の発想の違いなどに留意して学習していく。	
			世界の言語（フランス語） 1	できるだけテキストの文章を見ないで、音と耳を頼りにしてフランス語会話を勉強していく。学生同士、又は、教師と学生との相互の会話が授業の中心となる。「身の周りの日常の会話が、スラスラとできるようになることを目指す。」を到達目標として、フランス語の簡単な日常会話ができるように、会話を中心に勉強する。会話を修得するに際し最も大切なのは、耳を信頼すること。このクラスでは、テキストの文字を見ないで、耳だけに頼って、会話を覚えることを目指す。	
			世界の言語（フランス語） 2	テキストに頼らずに、フランス語を音と耳を頼りにして勉強していく。学生同士、又は、教師と学生との相互の会話を中心に授業を進める。「身の周りの日常の会話が、スラスラとできるようになることを目指す。」を到達目標として、フランス語の簡単な日常会話ができるように、会話を中心に勉強する。会話を修得するに際し最も大切なのは、耳を信頼すること。このクラスでは、テキストの文字を見ないで、耳だけに頼って、会話を覚えることを目指す。	
			世界の言語（フランス語） 3	できるだけテキストの文章を見ないで、音と耳を頼りにしてフランス語会話を勉強していく。学生同士、又は、教師と学生との相互の会話が授業の中心となる。「身の周りの日常の会話が、スラスラとできるようになることを目指す。」を到達目標として、フランス語の簡単な日常会話ができるように、会話を中心に勉強する。会話を修得するに際し最も大切なのは、耳を信頼すること。このクラスでは、テキストの文字を見ないで、耳だけに頼って、会話を覚えることを目指す。	
			世界の言語（フランス語） 4	テキストの文章に頼らずに、フランス語を音と耳を頼りにして勉強していく。学生同士、又は、教師と学生との相互の会話を中心に授業を進める。「さまざまな日常会話が、それほど困難なくできるようになることを目指す。」を到達目標として、フランス語の簡単な日常会話ができるように、会話を中心に勉強する。いろいろなケースに応用できる力を養うようにする。	

第 I 類科目	学びの技法	展開科目	世界の言語（ドイツ語） 1	「ドイツ語の文法の基礎レベル（人称代名詞・疑問代名詞まで〈授業計画参照〉）を理解できる。」を到達目標とする。初心者向けの授業ではあるが、知識人としてドイツ語の文献（主として文学と哲学）を読める学生を育てる。まずはドイツ語を読解できるようになるため、基礎文法をアルファベットと発音から、古来のラテン語の学習に基づくオーソドックスなやり方でしっかり学ぶ。それを通してドイツ語の世界観とドイツ語圏の人の思考を知る。	
			世界の言語（ドイツ語） 2	「ドイツ語の文法の基礎レベル（接続法まで〈授業計画参照〉）を理解できる。」「ドイツでの語学研修ができる。」を到達目標とする。知識人としてドイツ語の文献（主として文学と哲学）を読める学生を育てる。まずは春学期の授業の復習をし、続いて基礎文法を古来のラテン語の学習に基づくオーソドックスなやり方でしっかり学ぶ。それを通してドイツ語の世界観とドイツ語圏の人の思考を知る。	
			世界の言語（ドイツ語） 3	「独文和訳の基礎が理解できる。」を到達目標として、ドイツの絵本を和訳する。知識人としてドイツ語の文献（主として文学と哲学）を読める学生を育てる。一年で学んだドイツ語を復習しながら、グループでドイツ絵本の日本語訳を試みて、学生一人ひとりの読解力を高める。名作絵本に接することを通して地方と時代によって異なるドイツ語圏の国々の文化も知る。	
			世界の言語（ドイツ語） 4	「独文和訳のコツを覚えている。」「ドイツでの語学研修ができる。」を到達目標として、ドイツの絵本を和訳する。知識人としてドイツ語の文献（主として文学と哲学）を読める学生を育てる。一年で学んだドイツ語を復習しながら、グループでドイツ絵本の日本語訳を試みて、学生一人ひとりの読解力を高める。名作絵本を通して地方と時代によって異なるドイツ語圏の国々の文化も知る。	
			世界の言語（韓国語） 1	講義形式で、まずは教員が説明を行い、受講生には講義内容に沿った練習を、主に口頭でたくさん行ってもらう形で進める。「韓国語の文字の読み書きができるようにし、主な「てにをは」類を始め、<～です（か）>とその尊敬形<～でいらっしゃいます（か）>、<あります・います（ありません・いません）>とその尊敬形について学び、使い方に習熟することができる。」を到達目標として、韓国語についての概略的な知識を得た後、文字と発音、語彙と文法の基礎を学ぶ。	
			世界の言語（韓国語） 2	講義形式で行う。「ある・ない」、「いる・いない」の尊敬表現を始め、ものや場所を表す一連の<こそあど言葉>とそれらに「てにをは」類が組み合わさった形や、さまざまな疑問詞なども一通り習得する。また、「～ではありません」、「～ではなくて～」といった否定の表現や、「～ですが～」といった逆接の表現についても学ぶ。」を到達目標として、韓国語の語彙と文法をさらに広げて習得し、読解のための基礎を確かなものにする。	
			世界の言語（韓国語） 3	講義形式で行う。「用言の活用の基本を学ぶ。進んで、母音語幹、子音語幹、ㄹ(リウル)語幹、하다(ハダ)用言などの、<尊敬形>と<非尊敬形>を、2通りの丁寧な言い方、つまり「합니다(ハムニダ)体」と「해요(ヘヨ)体」で習得、習熟することができる。さらに、用言の否定形や不可能形をも学習できる。」を到達目標として、韓国語の語彙と文法をさらに広げて習得し、読解のための基礎を一層深めつつ確かなものにする。	
世界の言語（韓国語） 4	講義形式で行う。「変格活用も含めて、用言の活用の型を一通り習得することができる。また、さまざまな過去形を学び、過去形を容易に作ることができるようになる。さらに、形容詞や指定詞を中心に、用言の連体形の一部まで学ぶことができる。」を到達目標として、韓国語の読解の基礎をより充実させ、実際に短い文章の読解を試みる。韓国語の語彙と文法をさらに広げて習得し、読解のための基礎を一層深めつつ確かなものにする。				

第 I 類科目	学びの技法	展開科目	世界の言語（スペイン語） 1	ワークショップを取り入れながら行う。「スペイン語の正しい発音を身につけながら、スペイン語で書かれた文を正しく読むことを習得する。」を到達目標とする。このクラスを履修する学生は、数人ずつのグループに分かれて発表を行う。グループごとにスペイン語圏のいずれかの国について調べ、パワーポイントを用いた発表をする。発表に対しては成績評価の20%を割り当てる。テキストを読んで基本的事項を学ぶのに加えて、カードを使ったゲーム等を通してより実践的な形でスペイン語を学んでいく。	
			世界の言語（スペイン語） 2	ワークショップを取り入れながら行う。「前段階で学習した基本文法を活用して、さらに一歩進んだコミュニケーションができるようにゲーム等でスペイン語でのやりとりを実践していく。」を到達目標とする。テキストを読んで基本的事項を学ぶのに加えて、ゲーム等を用いてより実践的な形でスペイン語を学んでいく。またミニテストを通じて各人の習得の度合いを確認しながら授業をすすめていく。	
			世界の言語（スペイン語） 3	ワークショップを取り入れながら行う。「基本文法を活用して、さらに一歩進んだコミュニケーションができるようにゲーム等でスペイン語でのやりとりを実践していく。文法面では不規則動詞の活用を中心にしながら、動詞句の用法等を学んでいく。また、ビデオや話を通じて、スペイン語圏の国々の文化についてもさらに知識を広げる。」を到達目標とする。テキストを読んで基本的事項を学ぶのに加えて、ゲーム等を用いてより実践的な形でスペイン語を学んでいく。	
			世界の言語（スペイン語） 4	ワークショップを取り入れながら行う。「一歩進んだコミュニケーションができるようにゲーム等でスペイン語でのやりとりを実践していく。文法面では不規則動詞の活用を中心にしながら、動詞句の用法等を学んでいく。また、ビデオや話を通じて、スペイン語圏の国々の文化についてもさらに知識を広げる。」を到達目標とする。基本文法を用いながら、実践的にスペイン語を使う練習を重ねてゆく。また文法面のレベルアップもはかり、中級の文法をとりあげていく。	
			世界の言語（ヒンディ語） 1	主に講義形式で授業を行う。また、映像記録を使って、インド文化の生きた姿に触れて、それについて討論を行いインド文化理解の知識を身に付けてもらう第一歩とする。テーマは「インド文化への招待と現代ヒンディー語入門」。「現代インドの文化的多様性と言語のあり方を理解できる。」「ヒンディー語の枠組みを理解できる。」を到達目標として、現代インドの文化的諸相と現代ヒンディー語の入門として学ぶ。	
			世界の言語（ヒンディ語） 2	主に講義形式で授業を行う。また、映像記録を使って、インド文化の生きた姿に触れて、それについて討論を行いインド文化理解を深めてもらう。テーマは「現代ヒンディー語初級文法の学習の継続」。初習の語学は、教員の説明を聞いて継続と反復練習しか修得の道はない。したがって特別の事情がない限り授業に毎回出席し積極的に参加するのは当然である。「ヒンディー語の平易な単文を作文できる。」「インド文化理解を深められる。」を到達目標として、インド文化理解へのステップとする。	
			世界の言語（ヒンディ語） 3	主に講義形式で授業を行う。また、映像記録を使って、ヒンドゥー教の生きた姿に触れて、それについて討論を行いインド文化理解を深めてもらう。テーマは「現代ヒンディー語中級文法の学習」。初習の語学は、教員の説明を聞いて継続と反復練習しか修得の道はない。したがって特別の事情がない限り授業に毎回出席し積極的に参加するのは当然である。「平易な単文で会話・作文ができる。」「ヒンディー語のより自然な表現方法に慣れるようにする。」「ヒンドゥー教の概要を理解できる。」を到達目標として、インド文化の理解を行う。	
世界の言語（ヒンディ語） 4	主に講義形式で授業を行う。また、映像記録を使って、ヒンドゥー教の生きた姿に触れて、それについて討論を行いインド文化理解を深めてもらう。初習の語学は、教員の説明を聞いて継続と反復練習しか修得の道はない。したがって特別の事情がない限り授業に毎回出席し積極的に参加するのは当然である。「平易な単文で会話・作文ができる。」「ヒンディー語のより自然な表現方法に慣れるようにする。」「ヒンドゥー教の思想の概要を理解できる。」を到達目標として、インド文化を理解する。				

第 I 類科目	学びの技法	展開科目	英会話 I	グループ形式で学習成果を発表させる。演習形式で、学生に順次発表・回答させる。テーマは「英語運用能力（主にリスニングとスピーキング）の習得と異文化を理解する力の養成」。「英語による、自己表現力を養成する。」「TOEIC 345点、TOEIC Bridge 130点をめざす」を到達目標として、コミュニケーションのための、四技能運用語としての英語力の習得をめざす。また段階別に、リスニング力とスピーキング力を養成する。	
			英会話 II	グループ形式で学習成果を発表させる。演習形式で、学生に順次発表・回答させる。テーマは「英語運用能力（主にリスニングとスピーキング）の習得と異文化を理解する力の養成」。「英語による、自己表現力を養成する。」「TOEIC 370点、TOEIC Bridge 135点をめざす」を到達目標として、コミュニケーションのための、四技能運用語としての英語力の習得をめざす。また段階別に、リスニング力とスピーキング力を養成する。	
			英会話 III	グループ形式で学習成果を発表させる。演習形式で、学生に順次発表・回答させる。テーマは「英語運用能力（主にリスニングとスピーキング）の習得と異文化を理解する力の養成」。「英語による、自己表現力を養成する。」「TOEIC 520点、TOEIC Bridge 155点をめざす」を到達目標として、コミュニケーションのための、四技能運用語としての英語力の習得をめざす。また段階別に、リスニング力とスピーキング力を養成する。	
			英会話 IV	グループ形式で学習成果を発表させる。演習形式で、学生に順次発表・回答させる。テーマは「英語運用能力（主にリスニングとスピーキング）の習得と異文化を理解する力の養成」。「英語による、自己表現力を養成する。」「TOEIC 570点、TOEIC Bridge 160点をめざす」を到達目標として、コミュニケーションのための、四技能運用語としての英語力の習得をめざす。また段階別に、リスニング力とスピーキング力を養成する。	
			中国語会話 I	学生に順次発表・回答させる。「中国語を即戦力として使うことのできる能力の基礎を作ることができる。」「中国語検定準四級合格程度の力を養うことができる。」を到達目標として、語学の「読む・聞く・話す・書く」の四技能のうち、特に「聞く・話す」に重点を置いて訓練する。特に発音を確かなものにするのに力を入れる。そのため、繰り返しの発音指導と聞き取り訓練を行う。簡単な日常会話を学びながら、文法方面の知識も増やしていく。また会話をスムーズに行うために必要な中国の習慣や風習などについても知識を深めていく。	
			中国語会話 II	学生に順次発表・回答させる。「中国語を即戦力として使うことのできる能力を養うことができる。」「簡単な中国語で自分の意志を相手に伝えることができる。」を到達目標として、語学の「読む・聞く・話す・書く」の四技能のうち、特に「聞く・話す」に重点を置いて訓練する。正確な発音の上に立ち、自身のことを簡単な中国語で表現できるようにする。会話をスムーズに行うために必要な中国の習慣や風習などについても知識を深め、中国語によって良好なコミュニケーションが取れるように訓練していく。	
			ドイツ語会話 I	講義、および演習で行う。テーマは「ドイツ語によるコミュニケーションのための基礎力を養う」。「ドイツ語で挨拶や自己紹介をし、相手の職業や家族について聞けるようになる。部屋の中や街中にあるもの、時刻や行き先について会話できるようになる。」を到達目標として、ドイツ語の基礎文法を学びながら、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎力を身につける。	
			ドイツ語会話 II	講義、および演習で行う。テーマは「ドイツ語の応用的・実践的な会話力を身につける」。「ドイツでの日常生活（自己紹介、レストランやカフェ、買い物）で用いる会話がドイツ語でできるようになる。」を到達目標とする。文法を確認し、語彙を増やしながら、様々な場面に応じた応用的・実践的なコミュニケーション力を身につける。授業を通じて、日常的な会話をドイツ語で話せるようになることを目指していく。	

第I類科目	学びの技法	展開科目	文章技法A	講義のみならず、グループディスカッション・グループワークなども積極的に授業に取り入れていく。「大学生として必要なアカデミック・ライティングスキルを身につける」を到達目標とする。言語教育においては「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能がバランスよく伸びていくことが理想とされている。この科目では、「書く」ことに重点をおきつつ、そのために必要とされる「読む」こと、「聞く」ことの育成も意識していく。	
			文章技法B	講義形式で、主に教員が講義する。演習形式で、学生に順次発表・回答させる。「日本漢字能力検定に出題される各領域での漢字技能を磨き、検定の合格基準である80%の正答を導く漢字力が養成できる。」を到達目標とする。近年、文字を手書きする機会は減少したものの、漢字力は依然として社会生活を送るうえで不可欠である。現に多くの企業が確かな漢字力を求めており、「漢字検定」の取得は就職の際にも有利となっている。本科目では、常用漢字を幅広く適切に使いこなす漢字力の習得を目的とする。	
			技法A（論理力）	双方向型授業を重視し、全員が発言するディベートを主体にする。「資料などから主張を論理的に組み立て、的確な表現で話すことができる。」「相手方の主張に理詰めの反論をすることができる。」「情緒から切り離れた論理的思考を身につける。」を到達目標とする。テーマを決め、賛成論を用意して発表するグループ、それに対し反論をするグループ、討議結果を判定するグループに分かれ、説得力を競いながら論理力を身につける。	
			技法B（自己アピール）	講義形式で、主に教員が講義する。「自己アピールの出発点である「自分自身を正しく認識」することができる。」「自己アピールの際の基本として「数字」や「落差」が現出させる表現技法を知る。」「受講者の任意だが、希望者は個人で申請し、「ビジネス電話検定・知識B級」または「A級」を受け、就職資格の取得ができる。」を到達目標とする。本授業ではやがて直面する場面を想定しつつ、自己アピールに関する基礎知識を学ぶ。授業での学びを活用し、その場にふさわしい自己アピールを実習する。	
	留学生科目	日本語研究A	講義形式、グループ学習等で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身につける」「長文をできるだけ短時間で読む」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす」「自然な会話表現ができるようになる」「約5,000語の語彙力をつける」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる」を到達目標として、使用テキストに基づき、4技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究A～E」はセットでの履修である。		
		日本語研究B	講義形式、グループ学習等で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身につける」「長文をできるだけ短時間で読む」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす」「自然な会話表現ができるようになる」「約5,000語の語彙力をつける」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる」を到達目標として、使用テキストに基づき、4技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究A～E」はセットでの履修である。		
		日本語研究C	講義形式、グループ学習等で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身につける」「長文をできるだけ短時間で読む」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす」「自然な会話表現ができるようになる」「約5,000語の語彙力をつける」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる」を到達目標として、使用テキストに基づき、4技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究A～E」はセットでの履修である。		
		日本語研究D	講義形式、グループ学習等で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身につける」「長文をできるだけ短時間で読む」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす」「自然な会話表現ができるようになる」「約5,000語の語彙力をつける」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる」を到達目標として、使用テキストに基づき、4技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究A～E」はセットでの履修である。		
		日本語研究E	講義形式、グループ学習等で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身につける」「長文をできるだけ短時間で読む」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす」「自然な会話表現ができるようになる」「約5,000語の語彙力をつける」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる」を到達目標として、使用テキストに基づき、4技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究A～E」はセットでの履修である。		

第 I 類 科目	留学生 科目	日本語研究 F	グループワークを主とし、与えられた問題の解決、課題達成を目指す。テーマは「日本語の口頭表現能力養成」。授業開講時の学生個人の能力によって幅があるが、「日本語の中級～超級の会話能力獲得」を到達目標とする。日常の会話表現力向上はもとより、社会人として必要な敬語の知識、異文化理解に基づいた待遇表現の整理、日本語の論理に基づいた話し方等が身につくように授業を行う。	
		日本語研究 G	講義、演習、話し合いを織り交ぜながら進める。「その場にふさわしい気持ちや微妙なニュアンスを伝えるための文法事項を自ら選択し、それを使うことができる。」「類似表現の使い分けができる。」を到達目標とする。新聞記事を中心にエッセイ、意見文などの生の文章を教材として、その中にある文法事項を抜き出し、形と意味・用法を確認していく。その後それらを使えるように練習し、運用力をつけていく。また、微妙な表現を使い分けられるように、類似表現の習得を目指す。	
		日本語研究 H	主に講義形式で行う。テーマは「時事日本語」。「時事的な文章表現に慣れる」「現代社会一般に関する理解が深まる」を到達目標として、現代の日本社会が抱えている種々の問題を取り上げた短い文章を読む。聴解・読解を中心に、学部・大学院レベルの日本語を総合的に身につけることを目標とする。担当者作成教材をテキストとして使用して、政治、経済・経営、社会問題、文化を学習する。	
		日本語研究 I	ペアワーク、グループワークなども取り入れる。各自で作文実作に取り組む。作文を教師が添削し、フィードバックを全体で行う。「自分の表現したいことを語彙・文型・構成を考慮しながら書き表すことができる。」を到達目標とする。モデル文の読解・分析（構成や文型の確認など）を行い、次に、書くための準備（マッピング・フローチャートなど）を進め、その後作文を書く。書きあがった作文は教師が添削をする。必要があれば書き直しをし、最後に発表を行う。	
		日本文化研修	日本語授業、日本文化研修に加え、仏教系大学としての特色を活かした仏教研修道場等を体験する。日本語授業においては、総合日本語、日本語会話に関する講義を集中的に実施するほか、書道体験等も行う。これらの授業や体験を通じて、日本語の語学力向上だけでなく出身国との文化の違いを感じ取り、受講生一人ひとりが日本の文化を広く理解することを到達目標とする。	

第Ⅱ類科目	基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	講義形式とゼミナール形式を並行して行う。また、読解や調査など実践的な作業を多く導入する。「『国語教育』の枠を越えた方で文学作品を読解することができる」「自分の考えを発表することができる」「自分の考えを文章としてまとめることができる」を到達目標とし、高校の『国語教育』を越えた大学での学び、読解の能力を養う。古典文学、近現代文学、日本語学を学ぶための実践的なプログラムを通して、自ら学ぶ姿勢を身につけていく。	
		基礎ゼミナールⅡ	講義形式とゼミナール形式を並行して行う。また、読解や調査など実践的な作業を多く導入する。「古典文学の研究手法、文献調査の仕方について理解できる」「近現代文学の研究手法、文献調査の仕方について理解できる」「日本語学の研究手法、文献調査の仕方について理解できる」を到達目標とし、日本文学研究の基礎力を養う。古典文学、近現代文学、日本語学を学ぶための実践的なプログラムを通して、自ら学ぶ姿勢を身につけていく。	
		基礎ゼミナールⅢ	講義形式とゼミナール形式を並行して行う。また、読解や調査など実践的な作業を多く導入する。「古典分野：変体仮名によって書かれた文学作品を理解できる」「近現代文学：文語体の小説を分かりやすく翻訳できる」「日本語学分野：口語文法の基礎について理解できる」を到達目標とし、より高度な専門教育を学ぶための基礎力を養う。古典文学、近現代文学、日本語学を学ぶための実践的なプログラムを通して、自ら学ぶ姿勢を身につけていく。	
		基礎ゼミナールⅣ	講義形式とゼミナール形式を並行して行う。また、読解や調査など実践的な作業を多く導入する。「古典分野：変体仮名によって書かれた文学作品を理解できる」「近現代文学：文語体の小説を分かりやすく翻訳できる」「日本語学分野：口語文法の基礎について理解できる」を到達目標とし、より高度な専門教育を学ぶための基礎力を養う。古典文学、近現代文学、日本語学を学ぶための実践的なプログラムを通して、自ら学ぶ姿勢を身につけていく。	
		日本文化総論	講義形式を基本とするが、現代の事例を挙げたり、廃れた理由を考えるなど、受講生の積極的な授業参加を期待する。「日本文学の幅広い学習を通して文化の特徴が理解できる。」を到達目標とする。日本文化の概要を心得るために、世界のすべての物事を部門別に分類する方法を用い、部門ごとの代表的な事例を紹介し、現代につながるものと廃れたもの、近代に新しく取り入れられたものを見わかし、変遷とその理由などをともに考える。	
		日本文学基礎論	講義形式で、主に教員が講義する。テキストはプリントを配付する。「日本文学（古代から近世）に関する基本事項（理念・思想など）を学び理解を深めることができる。」「日本文学（古代から近世）の特質（ことば・文化）を理解し説明できる。」を到達目標として、日本文学（古代から近世）を理解するにあたって基本となる事項や理論を、具体的作品を取り上げながら講じ、日本文学とは何かを知る。	
		日本語基礎論	講義とパソコンによる作業とを交えながら授業を進めていく。「キーボードを見ないで10本の指でタイピングする方法（タッチメソッド）を体得できる。」「計量言語学の基礎的理論とパソコンによる基礎的調査・分析方法を体得できる。」「書き言葉のテキストのなかの文節と自立語の認定が正しくできるようになること。」を到達目標とする。近代小説を対象にして語彙の計量的調査・分析の方法について指導していく。また、計量言語学の基礎的理論も扱う。	
		哲学・思想基礎論	主として教員による講義。「哲学は科学や宗教とどう違うのか。哲学的に考えることの独自性と意義を理解できる。」「現代社会の在り方を読み解く鍵となる4つの立場（リバタリアニズム、リベラリズム、コンサバティズム、コミュニタリアニズム）を理解し、説明できるようになる。」などを到達目標として、現代社会を読み解く鍵となる、政治哲学の4つの立場について解り易く説明する。それとともに、それぞれの立場がどのような哲学者の思想に基いて形成されているのかを解説する。	
		宗教文化論	講義形式で行う。「自分の興味ある文化の領域に、宗教がどのように関わっているのかを、具体例を示しながら説明できる。」「文化に関するステレオタイプを懐疑的にみる姿勢を身につける。」を到達目標として、身近に接している様々な文化の中から、宗教的な要素に着目し、「宗教」の捉え方を広げることを目指す。食事、衣服、行事、あるいはアニメや映画など、日頃、親しんでいる文化の中から、宗教的な要素を切り出し、何気なく接してきた生活文化について、その成立背景や歴史の変遷を学び、より深い教養を身につけることを目指す。	
		カルチュラルスタディーズ総論	ディスカッション、グループワーク、発表を取り入れた学生参加型の授業。「カルチュラルスタディーズとはどのような分析の方法であるかを自分の言葉で説明できる。」「カルチュラルスタディーズの方法を使って、いくつかの具体的な文化的事例を解説することができる。」「自分でテーマをみつけ、新しい切り口で分析を試みる。」を到達目標として、私たちの行動や言葉、商品選択の背後にある動機をあらためて考え、私たちの自己表現や行動が生み出す文化的意味を考察する。	

第Ⅱ類科目	基礎部門	文化人類学	主に講義スタイルをとる。「文化人類学とはどのような学問かを答えられるようにする。」「文化の多様性と共通性が理解できるようにする。」「自文化(自己)を客観視し、他者を理解しようとする姿勢の重要性を理解する。」を到達目標として、文化の多様性を知り、文化人類学の基礎を学ぶ。講義ではいくつかのテーマを設定し、実際の例に触れながら、先人たちがそれをどのように考えてきたのかを説明していく。	
		表現文化論	文献資料や映像資料を提示した上での講義とディスカッションを行う。「人間の表現の歴史について、他人に順序立てて説明することができる。」「現在のメディア表現の祖型がなにかを、他人に順序立てて説明することができる。」「さまざまなメディアの特性についての基礎的知識をもつ。」を到達目標とする。表現・表象の歴史をひもどくと同時に、マンガ、映画、小説、インターネット、雑誌、テレビなどといった現在の多様なメディア表現の祖型をどこにたどることができるかを考える。	
	専門別部門	基礎日本文学Ⅰ	講義形式を基本とするが、グループディスカッションの形式なども取り入れた授業を行う。「日本近代文学の基本的な知識を修得し、文学の潮流や個々の作家の特性などの理解を深めること」を目標とする。先行論文の収集方法、文献の読み方、初出から単行本への加筆修正の意味、作家相互間の影響関係など、様々な観点から作品読解・理解の方法を探っていく。作品を読み解くことの面白さを知ってもらう。この授業が他の授業に発展的につながるように、日本文学の基礎となる研究方法と読解力を養っていく。	
		基礎日本文学Ⅱ	教員の講義だけではなく、ディスカッションも取り入れる。文学の潮流と思潮に注目して、時代ごとの作家グループの特性を挿んでいく。文学史上、なぜその作家たちのグループ名(自然主義・耽美主義・新感覚派など)が冠せられるようになったかを、複数の作家の作品を比較し、同時代の評論にも目を配ることで理解していく。作品が世相や風俗などと絡まり、一つの作品が他の作品に関連していることを理解していく。この授業を通じて、各自が作品を文学史の流れと理解しながら読解することができるようになることを目標とする。	
		基礎日本文学Ⅲ	講義形式を基本とするが、講義中の発問への回答、コメントシートの記入などを通し、受講生も参加可能な双方向型の授業を目指す。「古典文学史の概略を理解できる」「上代、中古、中世、近世、各時代の文学的な特徴を説明できる」「基本的な文学史用語などを説明できる」「主要な作家、作品について説明できる」を到達目標とし、古典文学史の知的体系について学ぶ。毎時間、前時限の復習を行うことで、日本文学を学んでいく上での基礎知識を身につけていく。	
		基礎日本文学Ⅳ	講義形式を基本とするが、講義中の発問への回答、コメントシートの記入などを通し、受講生も参加可能な双方向型の授業を目指す。「近現代文学史の概略を理解できる」「明治、大正、昭和、平成、各時代の文学的な特徴を説明できる」「基本的な文学史用語などを説明できる」「主要な作家、作品について説明できる」を到達目標とし、近現代文学史の知的体系について学ぶ。毎時間、前時限の復習を行うことで、日本文学を学んでいく上での基礎知識を身につけていく。	
		基礎日本語Ⅰ	講義形式を基本とするが、グループディスカッションの形式なども取り入れていきたい。「日本語の音韻的、語彙的な側面の基本的な知識を修得し、日本語の特徴について説明できるようになる。また、運用面でも活用できるようになる。」を到達目標とする。主に日本語について、音韻的、語彙的な側面を中心に考察し、歴史的に日本と関係の深い国々の人々や言語との混成や、その成り立ちとコミュニケーションの観点から特徴を明らかにしていく。	
		基礎日本語Ⅱ	講義形式を基本とするが、グループディスカッションも取り入れていきたい。「日本語の音韻的、語彙的な側面の基本的な知識を修得し、日本語の特徴について説明できるようになる。また、運用面でも活用できるようにする。」を到達目標として、「基礎日本語Ⅰ」をもとに、より発展的な内容に言及していく。主に日本語について、音韻的、語彙的な側面を中心に考察し、歴史的に日本と関係の深い国々の人々や言語との混成や、その成り立ちとコミュニケーションの観点から特徴を明らかにしていく。	
		基礎日本語Ⅲ	教員が講義するだけではなく、質疑応答や黒板の前に出て来ての解答作業など、双方向型授業をも重視する。「日本語における文章・文体と文字・表記との変遷に関する基礎的知識が習得できる。」を到達目標として、日本語の歴史の基礎知識を習得する。現代日本語の文章・文体が成立するまでに、文字・表記と文章・文体がどのようにして発達してきたかについて概説していく。	
		基礎日本語Ⅳ	教員が講義するだけではなく、質疑応答や黒板の前に出て来ての解答作業など、双方向型授業をも重視する。「日本語の音韻・文法・語彙の変遷に関する基礎的知識を習得する。」を到達目標として、日本語の歴史の基礎知識を習得する。平安時代の人々は「笹の葉は」を「シャシャノファファ」と発音していた。また、30年ほど前までは九州のご老人は「先生」を「シェンシェー」と発音し、東北のご老人は「百円」を「フィアグエン」と発音していた。授業ではこのような音韻をはじめとして、文法・語彙の変遷について考えていく。	

第II類科目	専門別部門	古典文学研究Ⅰ	主に講義形式で進めるが、ディスカッションも取り入れる。「西行の生涯と思想の概要を説明できる。」「西行の主な和歌を理解できる。」「西行研究の問題点を指摘できる。」を到達目標とする。『西行物語』上巻を読み進めることを柱としながら、『山家集』などの西行の歌集を適宜読み合わせつつ、西行の出家から陸奥の旅出発までの事跡、思想、和歌について考える。物語の中での西行を知ることを入り口として、さらに実西行の姿に迫っていく。和歌については、その読解をめぐってディスカッションを適宜行う。	
		古典文学研究Ⅱ	主に講義形式で進めるが、ディスカッションも取り入れる。「西行の生涯と思想の概要を説明できる。」「西行の主な和歌を理解できる。」「西行研究の問題点を指摘できる。」を到達目標とする。『西行物語』下巻を読み進めることを柱としながら、『山家集』などの西行の歌集を適宜読み合わせつつ、西行の陸奥の旅から入滅までの事跡、思想、和歌について考える。物語の中での西行を知ることを入り口として、さらに実西行の姿に迫っていく。和歌については、その読解をめぐってディスカッションを適宜行う。	
		古典文学研究Ⅲ	講義形式で進めるが、授業中、質問したり意見を述べたりすることは大歓迎なので、予習も復習もしっかりしてほしい。「説話文学の読解を通して平安時代の人々の考え方や当時の思想がわかる。」を到達目標とする。『今昔物語集』巻一〜二〇の本朝仏法部に焦点を絞り、諸宗の高僧の伝、寺院や法会の縁起、靈驗譚や往生譚を読解し、その典拠と後代への影響などを考察する。補助的に『七天狗絵(天狗草紙)』を利用し、遁世についても併せ考える。	
		古典文学研究Ⅳ	講義形式で進めるが、授業中、質問したり意見を述べたりすることは大歓迎なので、予習も復習もしっかりしてほしい。「説話文学の読解を通して鎌倉時代の人々の考え方や当時の思想がわかる。」を到達目標とする。はじめに説話文学史を展望したのち、鎌倉時代を中心とするさまざまな説話を読解しながら、そこに宿る思想や伝承する心にまで考察を及ぼす。途中から毎回、十訓抄の十の小序を読み進め、中世に徳目とされていたことの内容と思想を検討する。	
		古典文学研究Ⅴ	パソコン教室にて、翻刻と講義を行う。「変体仮名を正確に読むことができる。」「源氏物語の読解を通して、その時代の人々の考え方や当時の風習さらには思想がわかる。」を到達目標として、源氏物語講読(大正大学源氏物語の翻刻と講説)を行う。翻刻は、各自指定の箇所、講読は「桐壺」～「葵」までを行う。大正大学本を翻刻し講説する。インターネット上に公開されている大正大学本を底本として、パソコンを使い翻刻作業を行う。内容については、作中人物の生きざまや物語の展開に検証する。	
		古典文学研究Ⅵ	パソコン教室にて、翻刻と講義を行う。「変体仮名を正確に読むことができる。」「源氏物語の読解を通して、その時代の人々の考え方や当時の風習さらには思想がわかる。」を到達目標として、源氏物語講読(大正大学源氏物語の翻刻と講説)を行う。翻刻は、各自指定の箇所、講読は「賢木」～「松風」までを行う。大正大学本を翻刻し講説する。インターネット上に公開されている大正大学本を底本として、パソコンを使い翻刻作業を行う。内容については、作中人物の生きざまや物語の展開に検証する。	
		詩歌研究Ⅰ	講義形式・演習形式で行う。「古典和歌の大まかな流れが把握できる。」「和歌の果たした役割と、当時の人々の考え方が理解できる。」「勅撰集の代表的な歌を訳し、鑑賞することができる。」を到達目標として、和歌文学史を学ぶ。中古から近世に至る和歌の流れを概観しながら、勅撰集の編まれた背景、和歌の果たした社会的役割、作歌上の決まり、修辞などについての講義を行う。併せて、各歌集から秀歌を抜粋し鑑賞する。	
		詩歌研究Ⅱ	講義形式・演習形式で行う。テキストはプリントを配付する。参考文献は、『和歌文学講座』9「近代の短歌」、10「現代の短歌」。「近代短歌が出現した意味とその流れが把握できる。」を到達目標として、近現代の短歌史と秀歌を学ぶ。明治維新以後に起こった新派和歌運動を始点とし、短歌結社の興亡を核に現代に至るまでの短歌の流れを概観する。併せて、代表的歌人の秀歌を鑑賞する。	
		近代文学研究Ⅰ	講義形式を基本とするが、講義中の発問への回答、コメントシートの記入などを通し、受講生も参加可能な双方向型の授業を目指す。「近現代文学史の概略を理解できる」「明治、大正、昭和、平成、各時代の文学的特徴を説明できる」「基本的な文学史用語などを説明できる」「主要な作家、作品について説明できる」を到達目標とし、近現代文学史の知的体系について学ぶ。毎時間、前時限の復習を行うことで、日本文学を学んでいく上での基礎知識を身につけていく。	
		近代文学研究Ⅱ	講義形式を基本とするが、講義中の発問への回答、コメントシートの記入などを通し、受講生も参加可能な双方向型の授業を目指す。「現代の作家、作品の文学史的な位置づけを説明できる」「小説について、自分の読み=解釈を持つ」「小説についての自分の解釈を、自分なりの方法で表現することができる」を到達目標とし、現代、主に昭和、平成の文学の構図を学んでいく。現代の文学をとりあげていくので、自分自身の問題として、文学をとりあげていくことを目指す。	

第Ⅱ類科目	専門別部門	近代文学研究Ⅲ	授業は講義と演習形式を取り入れ、ディスカッションも行う。「近代文学に親しんで広い視点から読んでいくことで、日本近代文学の流れを理解する」ことを目指す。近代文学の嚆矢と目される二葉亭四迷『浮雲』や坪内逍遙『小説神髓』など作品の意義を理解するところから始めて、時代を追って、文学が様々に変容していく過程を主要な作品に注目して理解を深めていく。作品の解釈にあたっては、成立・構成・主題・思想・制度・風俗などを考慮して、作品の理解を深める。この授業を通じて各自のテーマ研究に通じる糸口をつかむ。	
		近代文学研究Ⅳ	授業は講義と演習形式を両方取り入れて行う。ディスカッションも随時取り入れる。各自のテーマに沿って調査した成果を報告してもらう。「設定した日本文学の課題に対して調査考察し、その結果を論理的・実証的にまとめることができる。」「作家や作品を、同時代の他の作家や作品との関連の中で位置づけることができる。」「設定した日本文学の課題に対する先行研究を整理し、適切に活用することができる。」などを目標とする。卒業論文のテーマに沿って、先行研究の整理・活用方法・構成・展開・論述方法についても講義する。	
		近代文学研究Ⅴ	演習も行いつつ、履修生の人数や授業展開の必要に応じて教員が講義する。「近代作家の児童文学を通して作者の理論や思想、特徴がわかる。」「近代作家に対する基礎知識を踏まえた上で、彼らが創作した児童文学の魅力を自分の言葉で説明することが出来る。」「などを到達目標とする。日本近代文学の主要作家たちが創作した優れた児童文学を取り上げ、その鑑賞と分析とを緻密に行っていくことで、近代作家の掲げた創作理念や文学的理想が児童文学の世界で如何に実現されているかを探る。	
		近代文学研究Ⅵ	演習も行いつつ、履修生の人数や授業展開の必要に応じて教員が講義する。「現代作家の児童文学を通して作者の理論や思想、特徴が分かる。」「などを到達目標とする。日本現代文学の主要作家たちが創作した優れた児童文学を取り上げ、その鑑賞と分析とを緻密に行っていくことで、現代作家の掲げた創作理念や文学的理想が児童文学の世界で如何に実現されているかを探る。また映像作品の鑑賞も併せて行うことで、文学と映像との双方向的なあり方や映像化の是非を巡る批評性を獲得する。	
		日本語学研究Ⅰ	講義形式で、主に教員が講義する。「文献の性格に応じた手法を適用する必要性が理解でき、文体考察上の多角的視点が獲得できる。」を到達目標とする。私たちが今日書いている日本語の文章・文体がどのような歴史を歩み、形づくられてきたかについて考察し、できるだけ具体的にわかりやすく解説する。特に、古代から中世、近代にかけての文体について、さまざまな角度から眺め、当時の政治、社会、文化状況を踏まえながら考えることを心がける。	
		日本語学研究Ⅱ	講義形式で、主に教員が講義する。「日本語の文字の多様性に目を向け、その複雑な有り様を歴史的認識に立って理解できる。」を到達目標とする。私たちが今日日本語を書くために用いる文字には、さまざまな種類がある。平仮名や片仮名そして漢字を用いる。また、小学校からローマ字も学習する。このような複数種類の文字で文章を書き、表記する習慣がどのような歴史を歩み、形づくられてきたかについて考察し、できるだけ具体的にわかりやすく解説する。	
		日本語学研究Ⅲ	主に講義形式で行う。日本語文法入門(1)をテーマとし、テキストは毎回レジュメを配付する。「日本語の文法を説明するときに参照すべき資料を読解できる。」「日本語の文法を説明するための基本的な用語を説明できる。」「日本語の文法について、語例や用例を上げながら説明できる。」を到達目標として、日本語の文法を考えるために必要な用語と考え方について学ぶ。	
		日本語学研究Ⅳ	主に講義形式で行う。「日本語学研究Ⅲ」における学習を基礎として、日本語文法入門(2)をテーマとし、テキストは毎回レジュメを配付する。「日本語の文法を説明するときに参照すべき資料を読解できる。」「日本語の文法を説明するための基本的な用語を説明できる。」「日本語の文法について、語例や用例を上げながら説明できる。」を到達目標として、日本語の文法を考えるために必要な用語と考え方について学ぶ。	
		音声学研究Ⅰ	講義および実技で行う。テキストは特に指定しない。適宜プリントを配布する。「言葉の学習を通して母音・子音がわかる。」「世界の言語で用いられている様々な音を自分で実際に発音し、聞き取ることができる。」を到達目標として、音声器官や国際音声字母(発音記号)などの、音声学の基礎を扱う。授業中には、声を出して発音をまねたり、聞き取りの問題に参加したりすることが求められる。発音練習は、ほぼ毎回、受講者全員が当たる。予習は特に必要ないが、授業で扱った音の発音や聞き取りを、授業後に各自で練習する必要がある。	
		音声学研究Ⅱ	主に講義形式で行う。テーマは「音声学・音韻論の入門」。テキストは特に指定しない。適宜プリントを配布する。「言葉の学習を通して、アクセントや声調をはじめとする音声学・音韻論の基礎がわかる。」「言葉のきまりを理解できる。」を到達目標として、音節、音素、アクセント、声調、イントネーションなどの音声学・音韻論の基礎を扱う。また、音響音声学と聴覚音声学について概説する。	

第Ⅱ類科目	専門別部門	言語学研究Ⅰ	講義形式で行う。「言葉の学習を通して言語の分布と特徴がわかる。」「言葉のきまりを理解できる。」を到達目標とする。「言語学」はことばの様々な側面を扱う学問である。この授業では、日本語を含む様々な言語を題材にとり、ことばの持つ特徴を説明する。言語学の諸分野のうち音声学、音韻論、形態論などについて概説する。授業では、言語データを受講者自らが分析することが求められる。授業で学習した知識を使って、「謎とき」に積極的に取り組んでほしい。また、授業後には配付プリントを復習してほしい。	
		言語学研究Ⅱ	講義形式で行う。「言語の学習を通して言語の歴史と文字がわかる。」「言葉のきまりや歴史を理解できる。」を到達目標とする。「言語学」はことばの様々な側面を扱う学問である。この授業では、日本語を含む様々な言語を題材にとり、統語論、意味論、語用論、歴史言語学、文字などについて概説する。授業では、言語データを受講者自らが分析することが求められる。授業で学習した知識を使って、「謎とき」に積極的に取り組んでほしい。また、授業後には配布プリントを復習してほしい。	
		仏教文学Ⅰ	講義形式で行う。仏教文学の作品の中から宗教絵巻である『七天狗絵』を取り上げ、精読する。本絵巻は、八宗の七タイプの慢心から天狗道に堕ちた者たちが世間を乱し、無常を観じて修行し、得脱するという筋をもつ。全体の構成をおさえたうえで、読み進め、解説を加えていく。「仏教文学」というジャンルも理解する。随時プリントを配布するので予習をして参加してほしい。	
		仏教文学Ⅱ	講義形式で行う。仏教文学の作品の中から、児童教科書とされる『童子教』を読む。この作品は、儒仏二教一致の立場から心がけと道徳を説く、少年向けの教科書で、五言の偈の形式をとっている。作品の中から主要な部分を拾い読みしていき、儒教と仏教とで通じ合う点、まったく対立する点など、さまざまな問題を探っていく。随時プリントを配布するので予習をして参加してほしい。	
		日本漢文学	毎回、授業のはじめの基礎漢文は演習とし、『本朝文粹』から選んだ漢詩文とその影響については講義形式とする。「漢文を規則にしたがって読めるようになる。」「『本朝文粹』収載の漢文作品の作者の考え方や、その文化的影響力が説明できる。」を到達目標として、『本朝文粹』の中から著名な作品を選び、読解するとともに、後代の文学に与えた影響を講義する。毎回、授業のはじめに漢文訓読や文法についての演習を行う。	
		日本文学課題研究Ⅰ	授業は講義形式で行い、ディスカッションも取り入れる。「王朝女流文学を学ぶことで、親しみと興味を持ち、テーマ研究の糸口をつかむことができる。」などを到達目標として、王朝女流文学の作品から、『蜻蛉日記』『枕草子』『和泉式部日記』を取り上げ、主要なくだりを精読する。作品の解釈にあたっては、成立・構成・主題・思想・制度・風俗などにも言及し、作品の理解を深める。また、作品が有する諸問題や諸説なども随時指摘しながら授業をすすめるので、各自のテーマ研究に通じる糸口をつかむことができる。	
		日本文学課題研究Ⅱ	授業は講義形式で行い、ディスカッションも取り入れる。「王朝女流文学を学ぶことで、親しみと興味を持ち、テーマ研究の糸口をつかむことができる。」などを到達目標として、王朝女流文学の作品から、『紫式部日記』『源氏物語』『更級日記』を取り上げ、主要なくだりを精読する。作品の解釈にあたっては、成立・構成・主題・思想・制度・風俗などにも言及し、作品の理解を深める。また、作品が有する諸問題や諸説なども随時指摘しながら授業をすすめるので、各自のテーマ研究に通じる糸口をつかむことができる。	
		日本文学課題研究Ⅲ	授業は講義形式で行い、ディスカッションも取り入れる。「設定した日本文学のテーマについて必要となる先行研究を調査して、活用できる。」「設定したテーマについての研究法やアプローチの方法を理解し、援用できる。」「平安時代の主要な文学作品の概要を理解し、先行研究の主要なテーマを理解している。」を到達目標とする。平安時代の主要な文学作品（物語・日記・和歌・随筆）を取り上げ、卒業論文作成を念頭に置いた「解題」「先行研究」「研究テーマ」「研究方法」などについて講義し、卒論作成に向けた個別指導を行う。	
		日本文学課題研究Ⅳ	授業は講義形式で行い、ディスカッションも取り入れる。各自のテーマに沿って調査した成果を報告してもらおう。「設定した日本文学の課題に対して調査考察し、その結果を論理的・実証的にまとめることができる。」「設定した日本文学の課題に対してさまざまな視点からアプローチし、結果をまとめることができる。」「設定した日本文学の課題に対する先行研究を整理し、適切に活用することができる。」を到達目標として、卒業論文のテーマに沿って先行研究の整理・活用方法・構成・展開・論述方法について講義する。	
		日本語学課題研究Ⅰ	講義とパソコンによる作業とを交えながら授業を進めていく。「パソコンによる基礎的な分析法を各自のレポートの作成に応用できる。」「計量言語学の基礎的理論と基礎的な分析技術を体得できる。」を到達目標とする。主にパソコンによる実際の作業を通して、歌詞の文体系の調査方法を体得できるようにする。具体的には、J-POPの歌詞を対象にして、テーマ分析、テキスト構造分析、Aメロ・Bメロ・サビの内容分析、字数分析、比喩分析などの方法を指導してから、個々の分析方法による実際の歌詞の分析をパソコンにより行っていく。	

第Ⅱ類科目	専門別部門	日本語学課題研究Ⅱ	講義とパソコンによる作業とを交えながら授業を進めていく。「パソコンによる高度な統計的分析法を各自のレポートの作成に応用できるようになる。」「自分の好きな歌詞6作品のタイニーコーパスを作成することができる。」などを到達目標とする。授業では、一年次に履修した日本語学基礎ゼミナールで指導したJ-POPの歌詞の語彙と文体の計量的な調査方法を応用して、各自の研究テーマにしたがい、実際に調査と研究を行い、レポートの作成につなげていく。	
		日本語学課題研究Ⅲ	講義とパソコンによる作業とを交えながら授業を進めていく。「受講者が先行論文を調査して、その問題点を指摘し、独自に研究テーマと研究計画とを設定できるようになる。」「研究対象のテーマ分析ができるようになる。」「研究対象をワープロファイルの形で集め、それを文節ごとに分割し、各文節の自立語の品詞認定ができるようになる。」などを到達目標とする。この授業では、受講者各自が研究テーマを設定して、研究計画をつくり、それに従って論文を作成することを目的とする。	
		日本語学課題研究Ⅳ	講義とパソコンによる作業とを交えながら授業を進めていく。「春学期に作成したタイニーコーパスに基づいて研究対象の度数順語彙表、対照語彙表、構造語彙表、構造分布表を作成できるようになる。」「構造語彙表、構造分布表に基づき、基本語彙と特徴語彙の分析と解釈ができるようになる。」「以上の作業を論文の形にすることができる。」を到達目標とする。この授業では、受講者各自が研究テーマを設定して、研究計画をつくり、それに従って論文を作成することを目的とする。	
	教職関連科目	書写技術研究A	講義と実技実習を行う。指定のテキストに加えて、適宜プリントを配付する。テーマは「書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てる」こと。「古典の臨書を通して書写能力を高めることができる。」「仮名と漢字の調和の美を理解することができる。」「字形、点画、線質と用筆の関係を把握する。」「書写能力を高めようとする姿勢がある。」を到達目標として、書道の実技指導を行い、同時に書道文化についての知識を養っていく。	
		書写技術研究B	講義と実技実習を行う。指定のテキストに加えて、適宜プリントを配付する。テーマは「書の創造的活動を通して書を愛好する心情を育てる」こと。「書写の専門的書法を身につけることができる。」「漢字行草書法の基本が理解できる。」「多様な表現方法を理解することができる。」「主体的に書作に取り組む姿勢がある。」を到達目標として、書体、書風に即した臨書表現ができるように実技実習を行う。	
		卒業論文	3～4年次を通じた課題研究Ⅰ～Ⅳにおいて、担当教員が指導する。3年次においては、卒業論文のテーマ設定と作成のための資料収集、論文の章立てと各章の概略を明確にする。 4年次においては、各人のテーマを深め、資料の収集、読み込み、章ごとの概略の作成等を通じて、論文として具体化する作業を行い、卒業論文を完成させる。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。